

早明浦ダム再生事業環境モニタリング委員会 第５回委員会

環境モニタリング結果

令和８年９月１１日

独立行政法人水資源機構
吉野川上流総合管理所
早明浦ダム再生事業推進室

早明浦ダム再生事業における環境モニタリングの概要

環境区分	工事中の環境監視計画	環境巡視による保全措置の確認調査計画※
大気質（粉じん）	粉じん 1回/月（降下ばいじん濃度計測）	①散水状況 ②タイヤ洗浄の実施状況 ③建設機械等の効率的な稼働状況 その他：防じんネット設置状況
騒音・振動	騒音・振動レベル 10分間隔自動計測 （騒音・振動レベル）	①低騒音型・低振動型建設機械の使用状況、 防音パネル、防音ネットの設置状況 ②建設機械等の効率的な稼働状況。 その他：資機材等の運搬状況
水質	SS、pH ・濁水処理装置内で水質を自動計測 ・自動計測、定期調査	その他：濁水処理装置の稼働状況
動物・生態系	希少猛禽類：定点観測法	①森林伐採における配慮状況 ②夜間照明の設置状況 ③周辺環境の攪乱に対する配慮状況
植物	生育状況確認：・年1回程度 ・残存する植物の生育状況確認 ・外来種の侵入状況記録	①移植した植物の生育状況の確認 ②外来種の対策状況 ③周辺環境の攪乱に対する配慮状況
人と自然との触れ 合いの活動の場	インフラツーリズムの開催	

※上記の実施状況については、環境巡視に
おいて確認する。

①大気質

■降下ばいじん測定結果

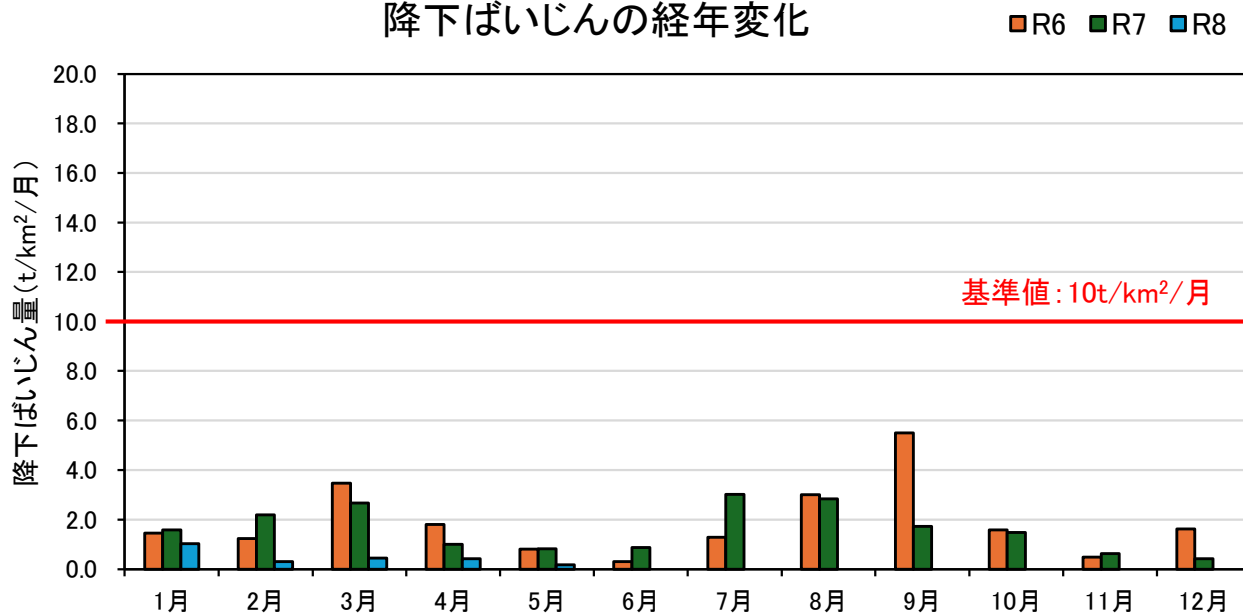
- ・降下ばいじんは、2024年（令和6年）1月より、月1回計測している。
- ・工事中の降下ばいじん量は、 $0.3 \sim 5.5 \text{ t/km}^2/\text{月}$ で推移しており、基準値を満足している。

【基準値】 $10 \text{ t/km}^2/\text{月}$

【参考】

- ・生活環境を保全する上での「降下ばいじんの寄与量」の目安（スパイクタイヤ粉じんの発生防止に関する法律の施行について（平成2年環大自第84号）： $20 \text{ t/km}^2/\text{月}$ ）から、降下ばいじん量の比較的高い地域の値（ $10 \text{ t/km}^2/\text{月}$ ）を引いた値（ $10 \text{ t/km}^2/\text{月}$ ）が管理上の目安となる。

降下ばいじんの経年変化



地点1:濁水プラント前の降下ばいじん測定結果(2024年1月～2026年5月)

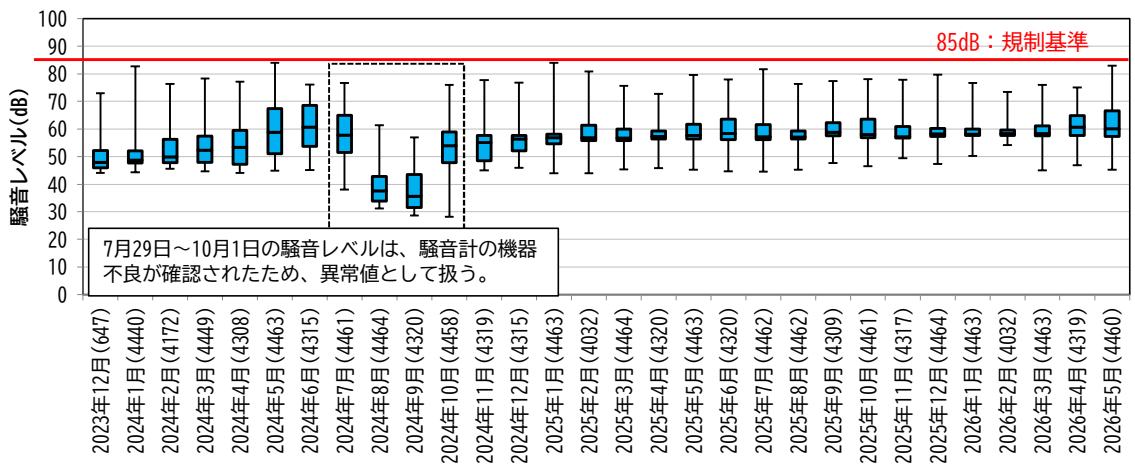


②騒音

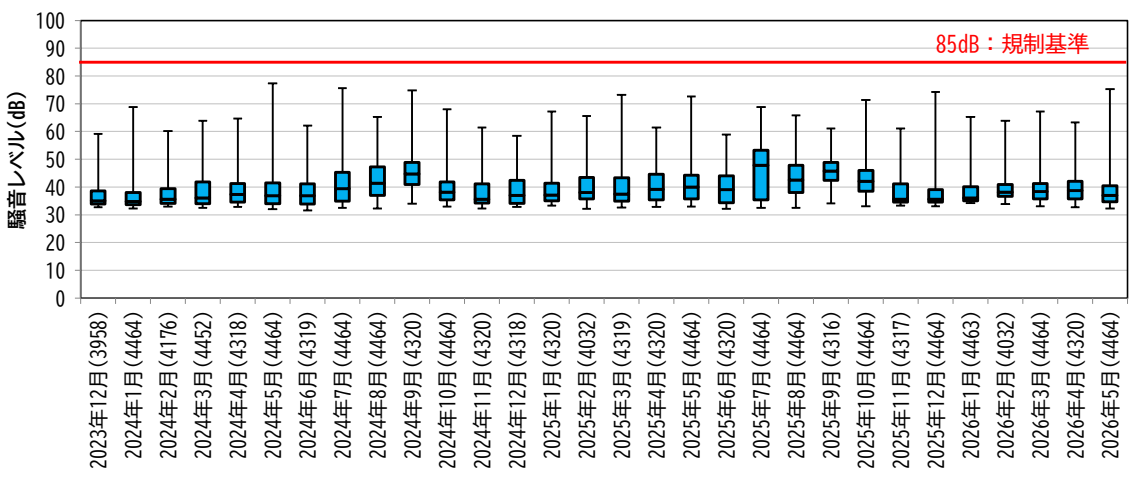
騒音測定結果：時間率騒音レベル

- ・ 工事中の騒音測定の結果、中央値は地点1で35～61dB程度、地点2で34～48dB程度で推移している。
- ・ これまでの調査において、建設機械の稼働に係る規制基準85dBを超える騒音は観測されていない。

【規制基準】「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」に基づく規制基準：85dB 以下

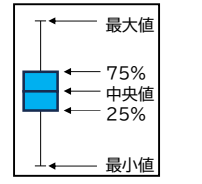


地点1：濁水プラント前の騒音測定結果注)



地点2：吉野公園の騒音測定結果注)

注) 工事以外の影響と考えられる騒音レベルは、異常値として除外した。



※括弧内の数字は観測回数を示す。

※括弧内の数字は観測回数を示す。



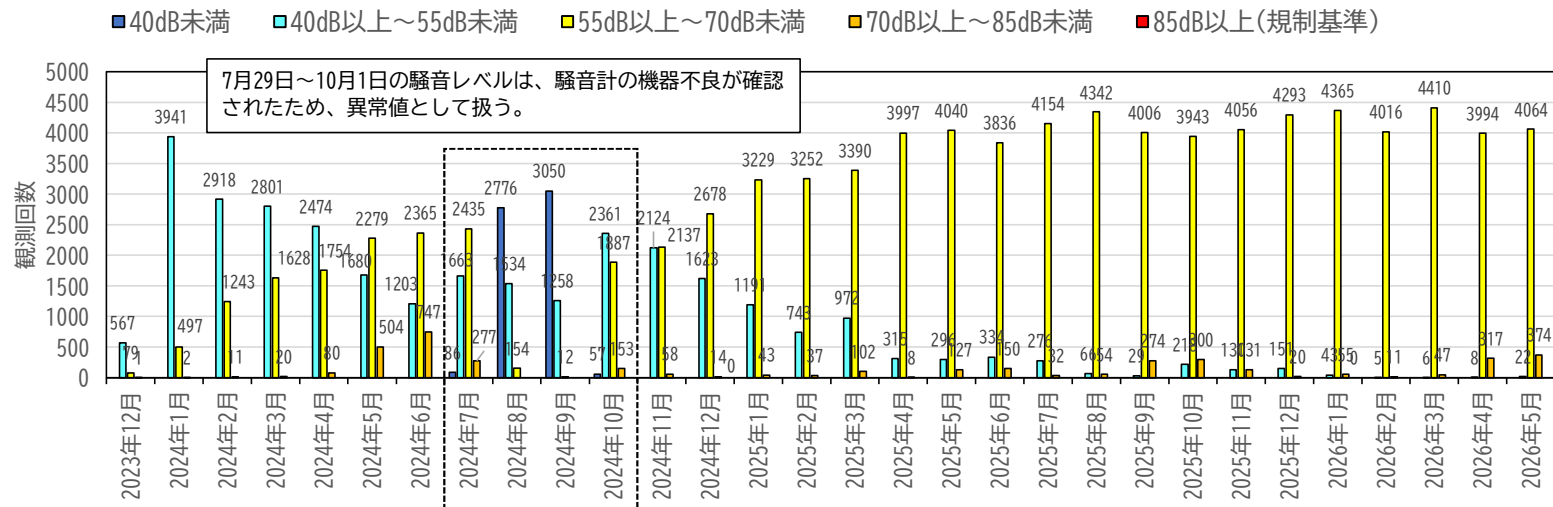
②騒音

■騒音測定結果：時間率騒音レベルごとの観測回数

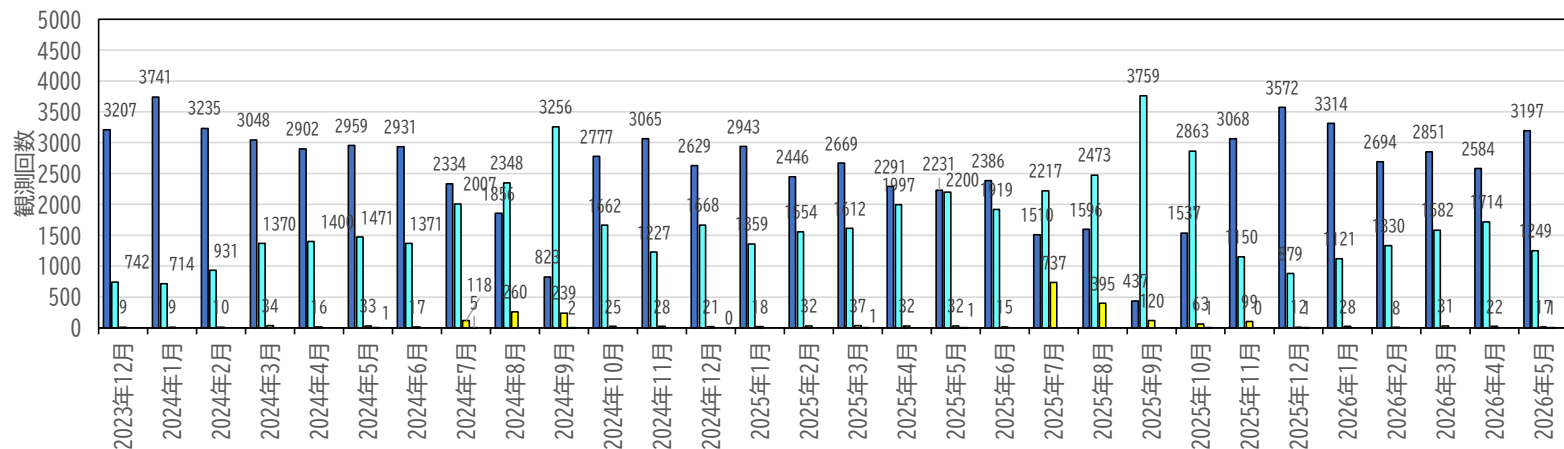
- 地点1では2024年10月以降、55dB以上～70dB未満の観測回数に増加の傾向がみられるものの、70dB以上の観測回数は少ない。地点2では55dB未満の観測回数が多く、地点1と比較して騒音レベルは低い。
- これまでの調査において、建設機械の稼働に係る規制基準85dBを超える騒音は観測されていない。

【規制基準】「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」に基づく規制基準：85dB 以下

地点1：
濁水プラント前における
10分間隔の時間率騒音レ
ベルごとの観測回数^注



地点2：
吉野公園における10分間
隔の時間率騒音レ
ベルごとの観測回数^注



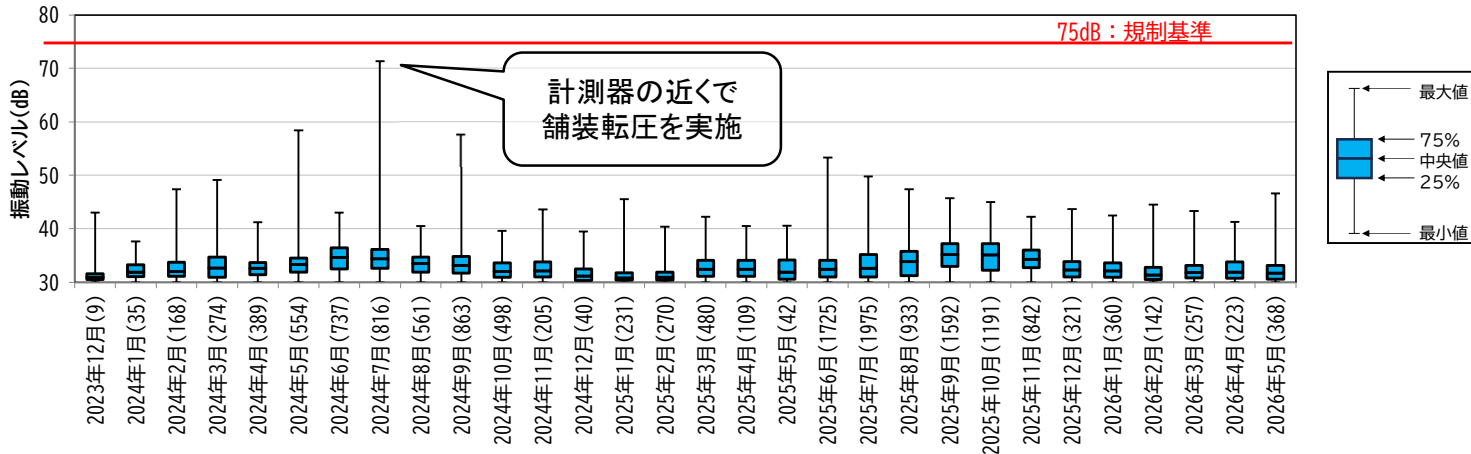
注)工事以外の影響と考えられる騒音レベルは、異常値として除外した。

③振動

■振動測定結果：時間率振動レベル

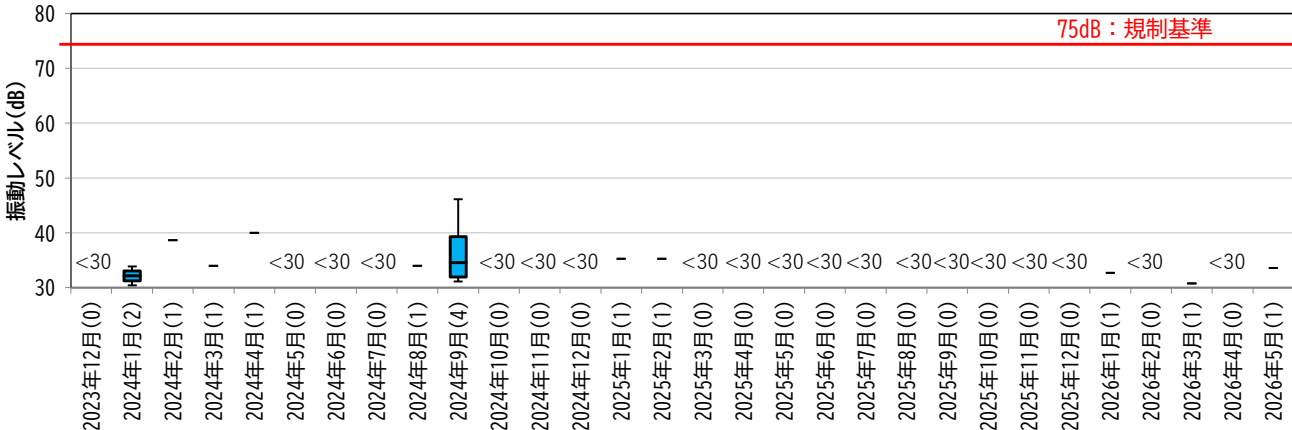
- ・振動は、振動レベル計の計測下限値（30dB）以上の結果のみを整理した。
- ・これまでの調査では特定建設作業の規制に関する基準75dBを超える振動は観測されていない。

【規制基準】 振動規制法施行規則による特定建設作業の規制に関する基準：75dB 以下



注)振動レベル30dB未満を除く。括弧内の数字は30dB以上の観測回数。

地点1：濁水プラント前の振動測定結果



注)振動レベル30dB未満を除く。括弧内の数字は30dB以上の観測回数。

地点2：吉野公園の振動測定結果



振動測定位置図

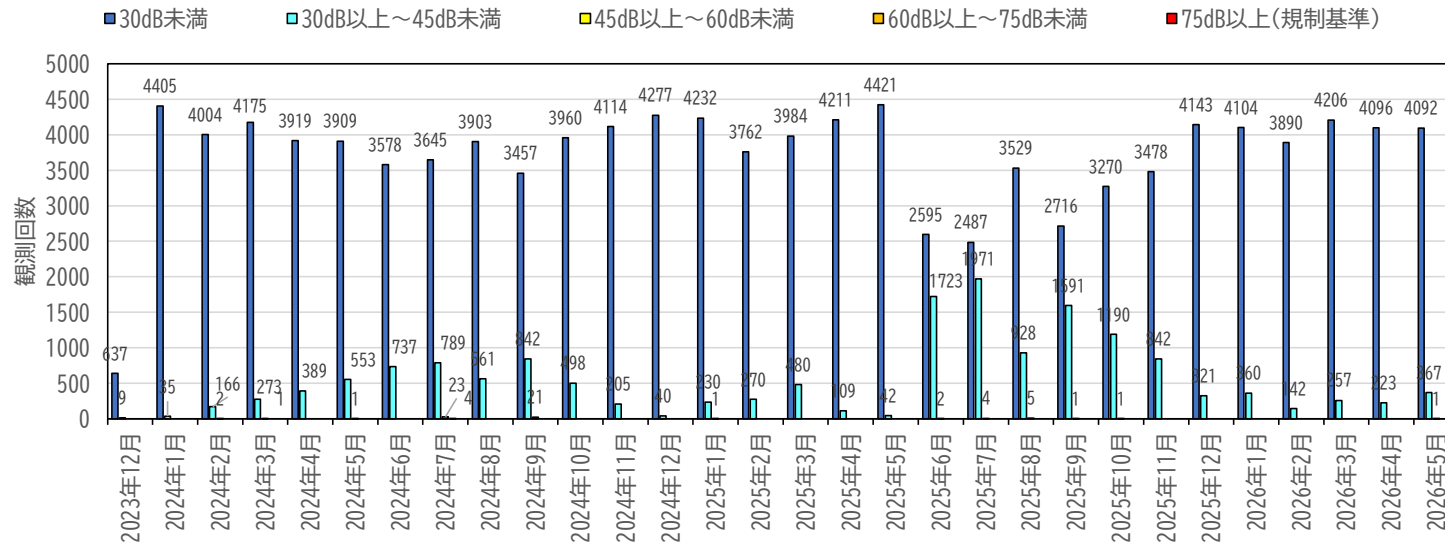
③振動

■振動測定結果：時間率振動レベルごとの観測回数

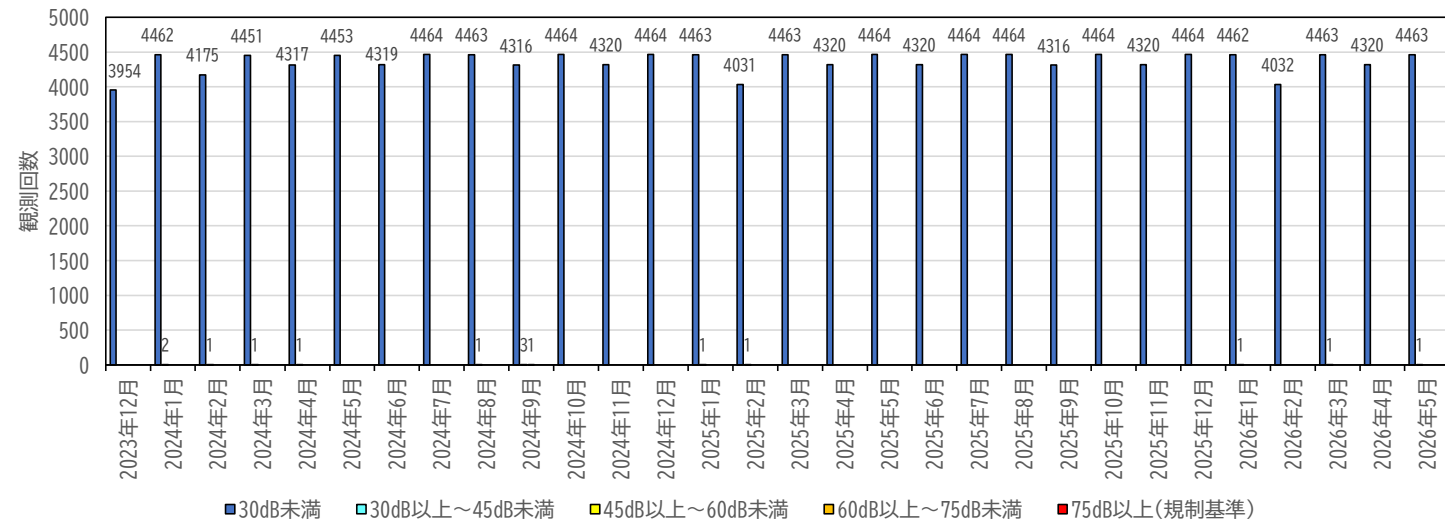
- ・ 振動測定の結果、ほとんどの時間で振動レベルは30dB未満であった。
- ・ これまでの調査では特定建設作業の規制に関する基準75dBを超える振動は観測されていない。

【規制基準】 振動規制法施行規則による特定建設作業の規制に関する基準：75dB 以下

地点1：
濁水プラント前における
10分間隔の時間率振動レ
ベルごとの観測回数



地点2：
吉野公園における10分間
隔の時間率振動レベルご
との観測回数

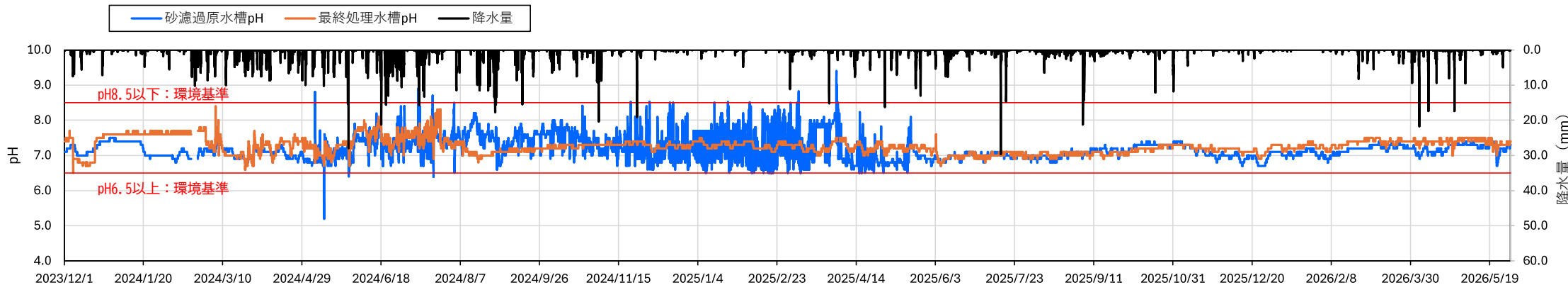


④水質

■濁水処理設備における水質測定結果（pH）

- 砂濾過原水槽のpHは、一時的に8.5を超えるケースもあったが、最終処理水槽のpHは環境基準の範囲内である6.5～8.5の間で推移している。

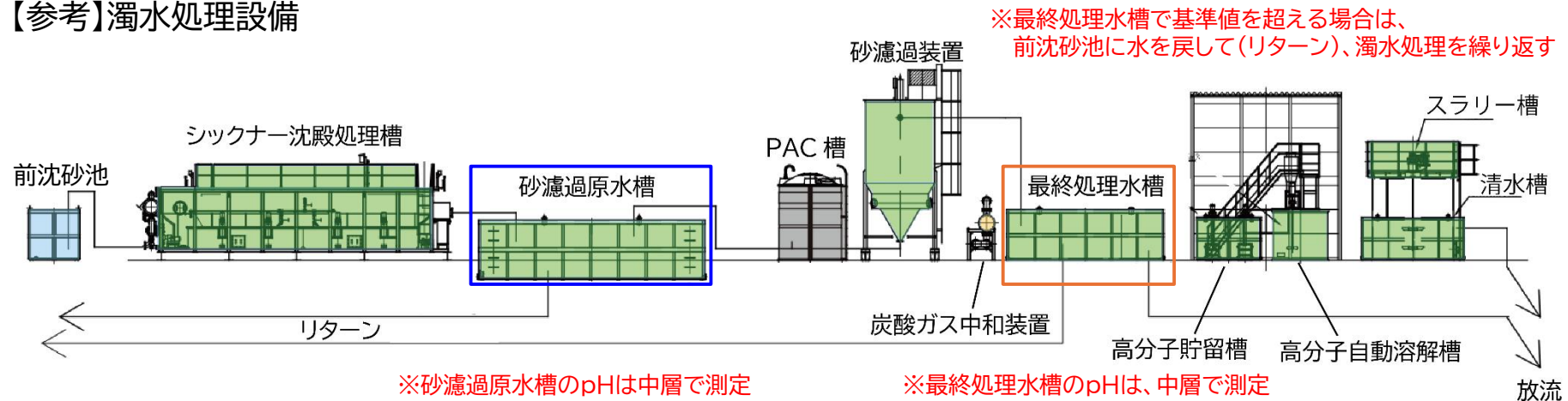
【環境基準】 pH6.5以上8.5以下(吉野川上流：河川AA類型)



注)2024年8月以降、pHの変動を抑えるため、処理の際に炭酸ガスを注入するタイミングを変更

濁水処理設備における水質測定結果(pH)

【参考】濁水処理設備

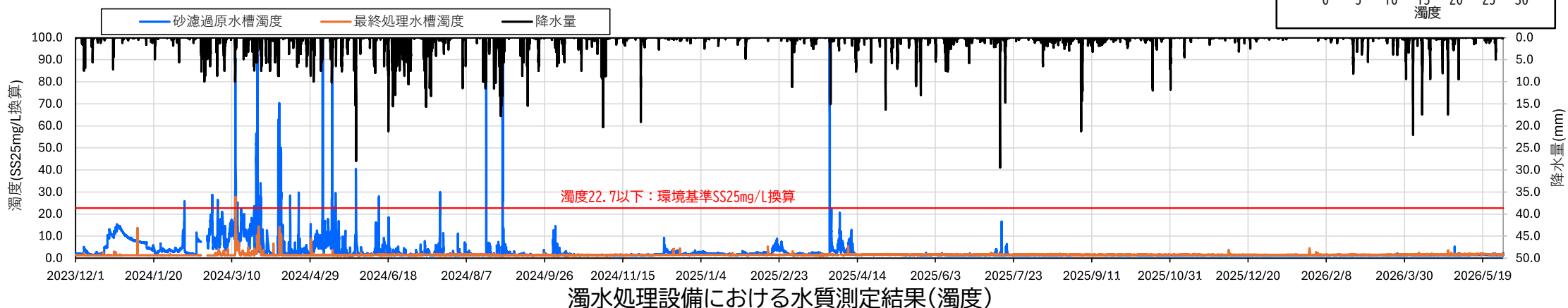
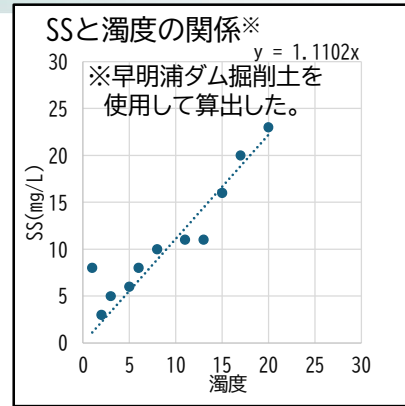


④水質

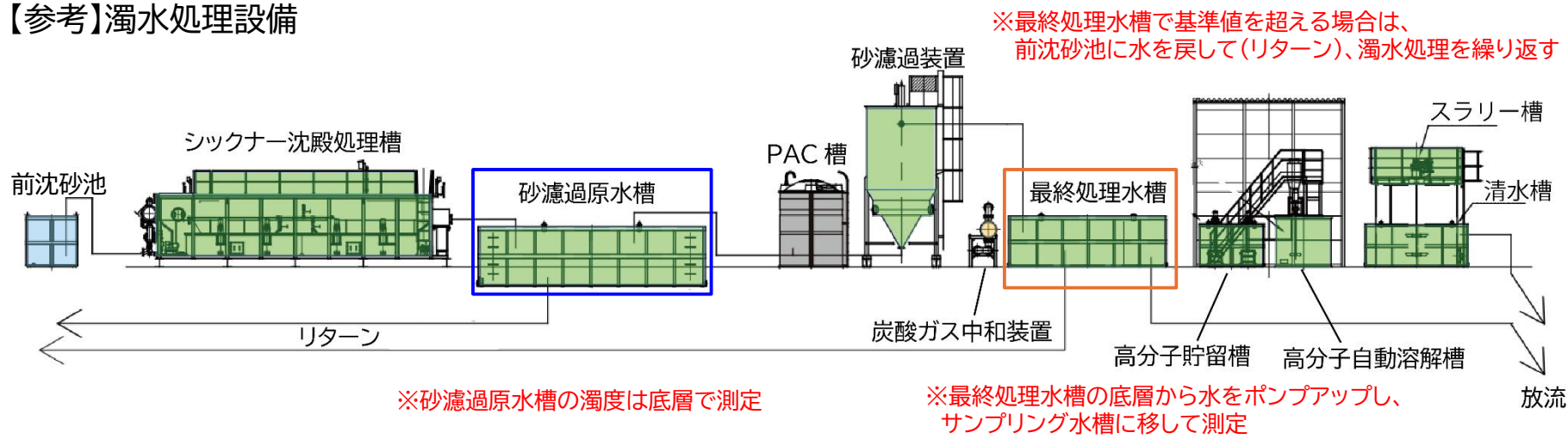
■濁水処理設備における水質測定結果（濁度）

- 砂濾過原水槽内の濁度は、一時的に環境基準を超過するケースもあったが、最終処理水槽の濁度は、ほぼ環境基準以下で推移している。

【環境基準】SS 25mg/L以下(吉野川上流：河川AA類型)



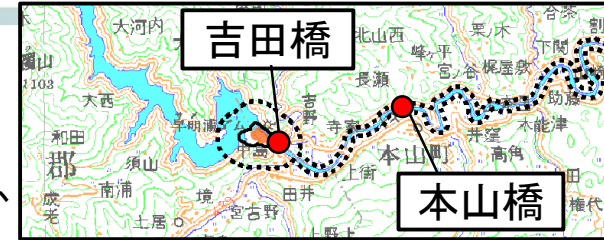
【参考】濁水処理設備



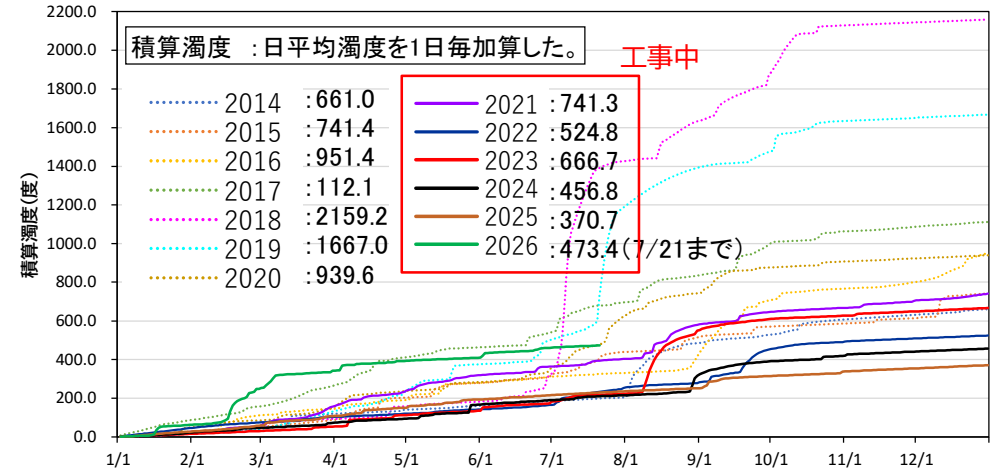
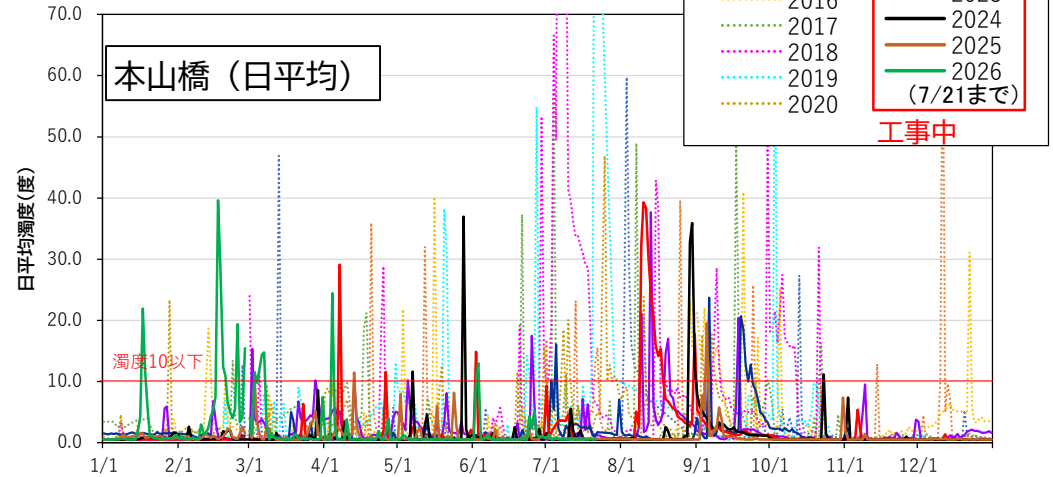
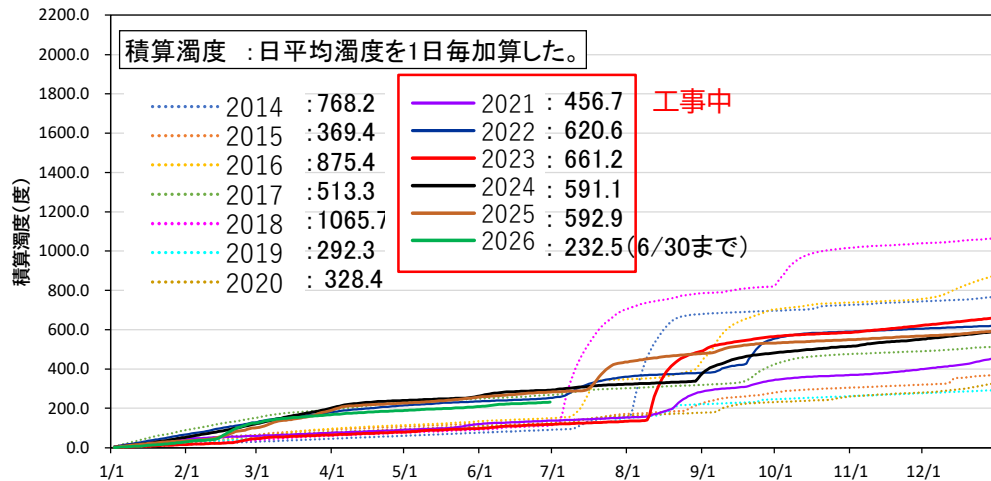
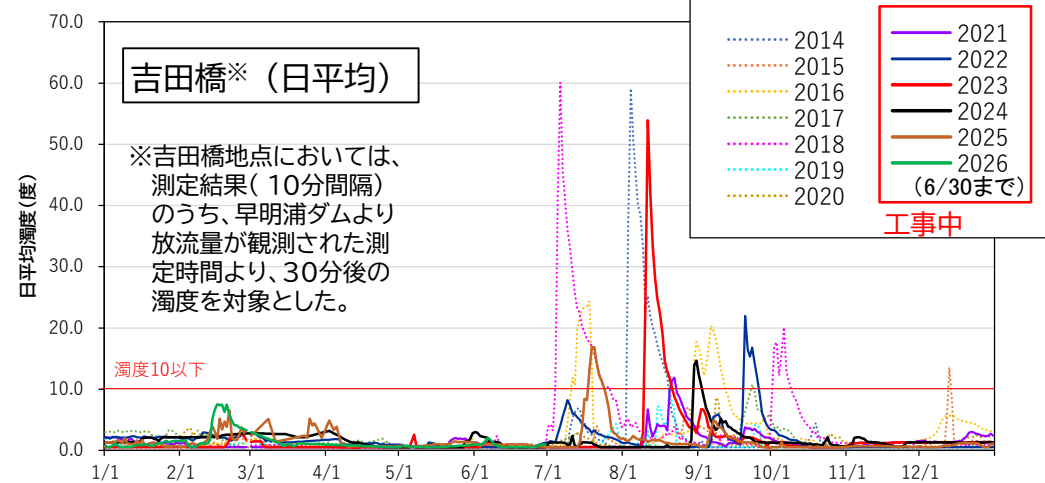
④水質

■下流河川における濁度測定結果

- ・2021年より工事用道路工事、2023年より下流部工事等が開始された。
- ・吉田橋の2021～2025年の積算濁度は、工事前の期間（2014～2020年）でみられた値の範囲内であった。2023年8月及び2025年7月に高い濁度がみられる期間があったものの、台風接近等に伴う降水による影響と考えられる。
- ・本山橋では、本事業以外の工事の影響により、2026年1～2月に濁度の上昇がみられた。



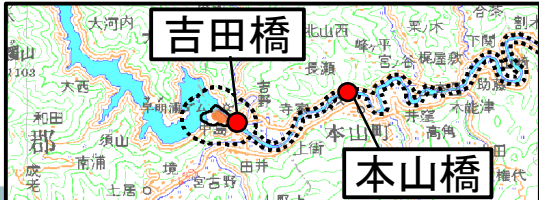
■吉田橋、本山橋の濁度(日平均)及び積算濁度



注) 積算濁度は、日平均濁度を1日毎に加算した。積算濁度の計算のため、日平均値で欠測となる日は、前後の値から補間した。

注) 測定結果(10分間隔)から、日平均濁度を集計した。その際、濁度が20度以上で、時間当たりの降水量が0mmかつ連続して観測されていない場合は、異常値として集計対象外とした。

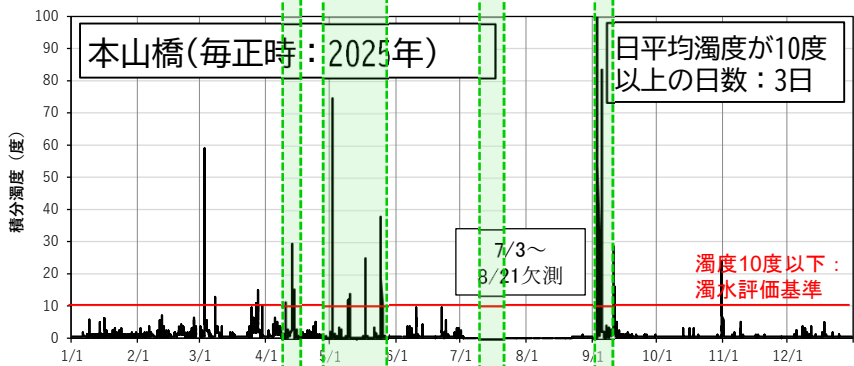
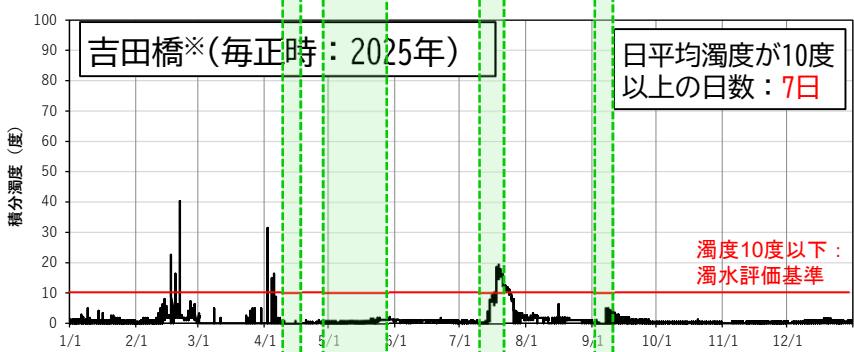
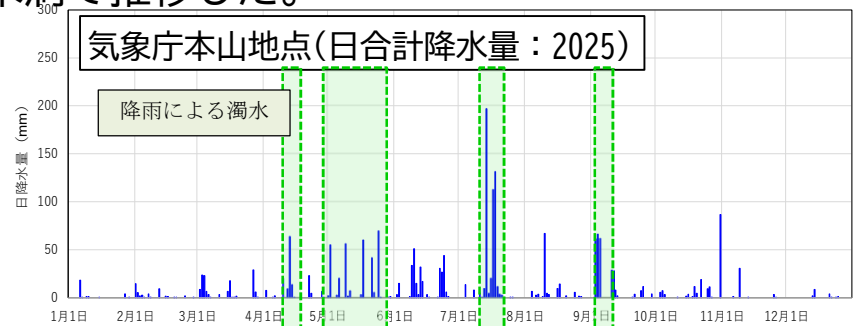
④水質



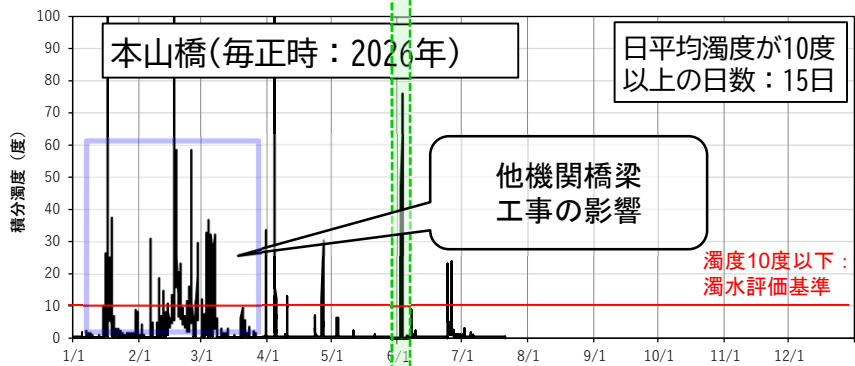
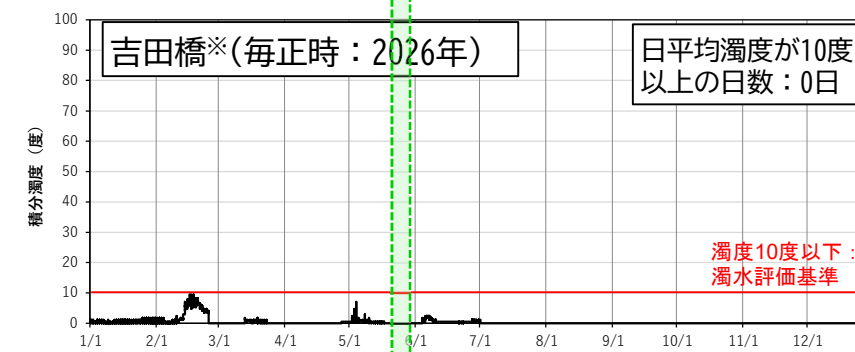
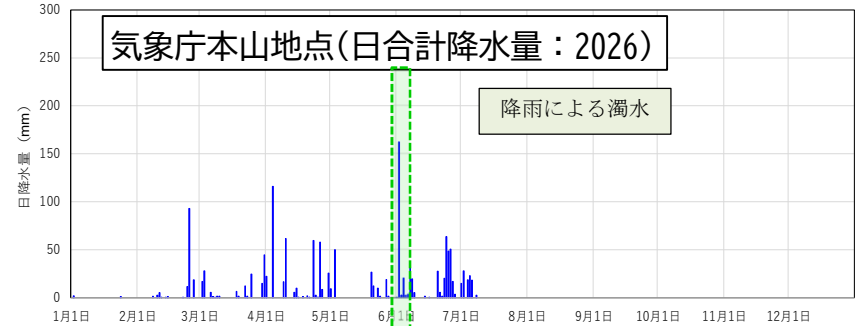
下流河川における濁度測定結果（2025年、2026年）

- 2025年7月18日～7月24日にかけて濁度が10度以上となった。7月14日以降の大雨の影響で、7月18日に洪水調節が行われた影響と考えられる。
- 2026年の吉田橋では、2月中旬頃に濁度の増加がみられたものの、10度未満で推移した。

工事の実施(土砂による水の濁り)による水質の影響予測
【早明浦ダムにおける濁水評価基準】濁度10度以上の日数
吉田橋:年平均で17日から19日に増加
本山橋:ほとんど濁度の上昇はみられない



2025年の降水量(日合計)と吉田橋、本山橋の濁度(自動計測:毎正時)



2026年の降水量(日合計)と吉田橋、本山橋の濁度(自動計測:毎正時)

※吉田橋地点においては、測定結果(10分間隔)のうち、全放流量が観測された測定時間より、30分後の濁度を対象とした。

注)測定結果(10分間隔)のうち、濁度が20度以上で、時間当たりの降水量が0mmかつ連続して高い濁度が観測されていない場合は、異常値として集計対象外とした。

④水質

下流河川における濁度測定結果（2025年7月）

- 2025年7月18日～7月24日の吉田橋において、日平均濁度10度以上が1週間継続した。7月14日以降の降水による影響で、7月18日に洪水調節が行われており、放流量が落ち着いた7月21日以降日平均濁度は減少傾向となった。
- 工事が要因と考えられる継続的な濁水の発生はみられなかった。



※吉田橋地点においては、測定結果(10分間隔)のうち、全放流量が観測された測定時間より、30分後の濁度を対象とした。

2025年7月の濁度測定結果(毎正時)



2025年7月18日撮影

濁度が10度以上となった日の概況
(2025年7月18日～7月24日)

日平均濁度が10以上の日	日平均濁度	当日の降水量	前日の降水量	当日の放流量(日平均)	備考
7月18日	13.2	131	112.5	777.8	
7月19日	16.8	11.5	131	226.3	休工日
7月20日	16.9	3.5	11.5	82.6	休工日
7月21日	14.3	2.5	3.5	58.3	
7月22日	12.3	0	2.5	56.3	
7月23日	11.3	0	0	56.3	
7月24日	10.3	0	0	56.5	

非公開資料 【⑤希少猛禽類、⑥植物】

※希少猛禽類の飛翔ルート、希少植物の生育地等の情報が
含まれるため、一般傍聴者の方は退席をお願いいたします。

⑤希少猛禽類—調査手法—

■調査内容

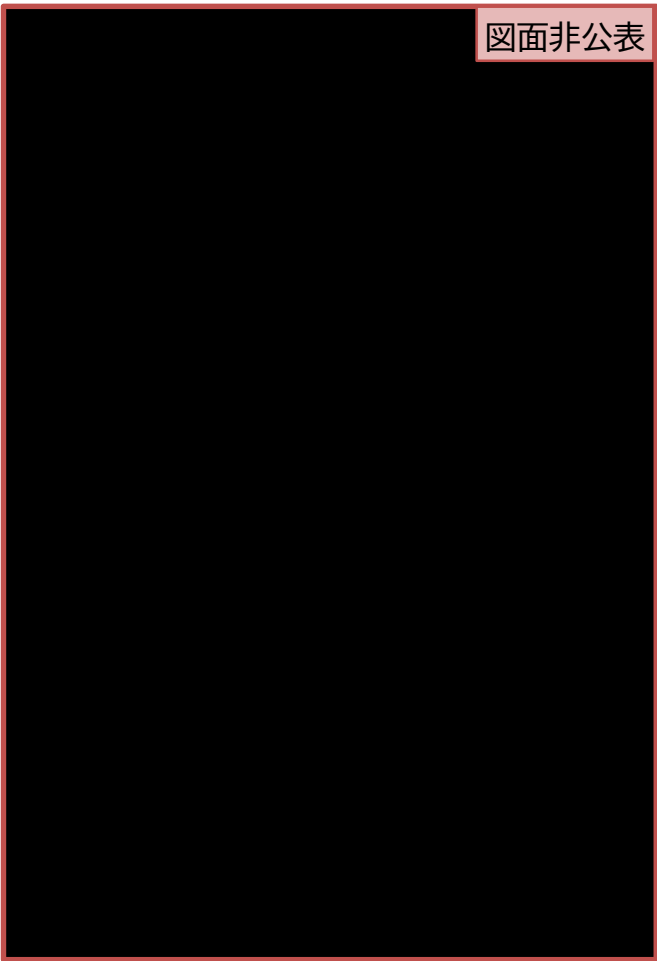
調査目的	・事業実施区域周辺で繁殖が確認されている希少猛禽類(ミサゴ、オオタカ、クマタカ及びノスリ)を主対象とし、繁殖状況、営巣地の移動(工事箇所へ近づく移動に留意)、工事に対する忌避行動の有無等を把握し、工事影響について整理する。
調査範囲	・事業実施区域の境界から3kmの範囲
調査方法	①定点観測法 ・3日間連続／回、日中8時間程度、2地点／日 ・11～4月(計6回) ・猛禽類の出現状況に応じて移動観察を併用。 ②営巣状況の確認調査 ※ ・営巣地付近の定点観測法による調査を行い、各つがいの営巣状況を判断する。 ・1日間／回、日中8時間程度、2地点／日 ・7月(1回)、8月(1回・自主的な補足調査) ・猛禽類の出現状況に応じて移動観察を併用。

注)
※ 昨期と同様に営巣地調査を実施する予定であったが、委員アドバイス「本繁殖期(令和7-8年繁殖シーズン)の今後の調査として、オオタカの既知の巣における営巣可能性が極めて低いこと、クマタカは既知の巣が落巢していること、ミサゴは巣1～3で営巣活動の継続が確認されていること等から、営巣地調査は巣を踏査する調査ではなく、営巣地周辺を含めた範囲における営巣状況を確認する調査として、7月に、1回、定点調査を実施することが望ましい(2026.7.2)」を踏まえ、営巣状況の確認調査を実施した。
※ また、2026年7月の営巣状況の確認調査時にクマタカの新巣2及び巣内雛を確認したため、2026年8月にクマタカの巣立ちを確認するための自主的な補足調査を実施した。

希少猛禽類調査・地点及び累積観察時間の分布
(2025.11～2026.8)

■調査時期

調査項目	2025年		2026年							
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
定点観測法	25-27日	16-18日	27-29日	24-26日	24-26日	21-23日				
営巣状況の確認調査									9日	12日 補足調査



注)上記の他 各調査時期に補足調査を実施した。



⑤希少猛禽類—確認種—

・主要な調査対象種(ミサゴ・オオタカ・クマタカ・ノスリ)のほか、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、サシバ及びハヤブサのあわせて9種を確認。
・昨期までに営巣が確認されているミサゴ・オオタカ・クマタカを除く6種については、事業実施区域周辺における営巣可能性は確認されず。

No.	目名	科名	種名	渡り区分 ※2	調査時期別の確認回数※1																		一般的な 繁殖時期 ※3	種の貴重性※4						
					令和7～8年繁殖シーズン																									
					2025年				2026年											合計(調査区分別)		合計(生活史別)		総計						
					11月		12月		1月		2月		3月		4月		7月		8月		規定調査	自主 追加調査			繁殖期	非 繁殖期				
					定点観測法		定点観測法		定点観測法		定点観測法		定点観測法		定点観測法		その他	営巣状況の 確認調査		営巣状況の 確認調査										
					規定調査	補足調査	規定調査	補足調査	規定調査	補足調査	規定調査	補足調査	規定調査	補足調査	規定調査	補足調査	補足調査	規定調査	補足調査	補足調査										
										25～27日	24,28日	16-18日	15,19日	27-29日	26,30日	24-26日	23,27日	24-26日	23,27日	21-23日	20,24日	2日		9日	8,10日	12日				
1	タカ	ミサゴ	ミサゴ	留鳥	7 (1)	4 (1)	14 (1)	4	29 (15)	4	53 (47)	5 (2)	32 (22)	1 (1)	27 (20)	3 (1)	6 (6)	7 (5)	7 (7)		169回 (111回)	34回 (18回)	141回 (111回)	62回 (18回)	203回 (129回)	2～7月				CR+EN
2		タカ	ハチクマ	夏鳥													1				0回 (0回)	1回 (0回)	1回 (0回)	0回 (0回)	1回 (0回)	5～8月			NT	EN
3			ツミ	留鳥	1																1回 (0回)	0回 (0回)	0回 (0回)	1回 (0回)	1回 (0回)	3～7月				NT
4			ハイタカ	冬鳥	1	1	3	2	1		2										7回 (0回)	3回 (0回)	0回 (0回)	10回 (0回)	10回 (0回)	3～8月			NT	VU
5			オオタカ	冬鳥 又は留鳥					1				3								4回 (0回)	0回 (0回)	4回 (0回)	0回 (0回)	4回 (0回)	1～7月			NT	CR+EN
6			サシバ	夏鳥										1	2	9 (3)		10 (10)	4 (3)		12回 (10回)	14回 (6回)	25回 (16回)	1回 (0回)	26回 (16回)	4～7月			VU	VU
7			ノスリ	冬鳥	6	1	17 (3)	1	9		3		4								39回 (3回)	2回 (0回)	7回 (0回)	34回 (3回)	41回 (3回)	2～8月				VU
8			クマタカ	留鳥		6 (4)	1		9 (5)	16 (10)	2	4 (4)	7 (5)	18 (12)	7 (6)			3 (1)	7 (5)	4 (3)	29回 (17回)	55回 (38回)	84回 (55回)	0回 (0回)	84回 (55回)	通年		国内	EN	CR+EN
9	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	留鳥	2	1 (1)			2		4										8回 (0回)	1回 (1回)	4回 (0回)	5回 (1回)	9回 (1回)	2～7月		国内	VU	CR+EN

注) ※1.規定調査はモニタリング調査計画(第2回委員会にて策定)を踏まえた昨期と同じ調査内容を、補足調査は規定調査以外の追加調査を示す。
ピンクの枠は繁殖期を、水色の枠は非繁殖期を示す。(青色の回数)は、繁殖行動を含む確認回数を示す。

※2.渡り区分は、「四国の野鳥」(高知新聞社、平成7年)を参考にした。

※3.繁殖時期は、「図鑑日本のワシタカ類」(森岡照明ほか、平成7年)を参考にした。

※4.種の貴重性の選定基準は以下のとおり。なお、「高知県指定希少野生動植物保護条例(令和3年2月改訂)」において、鳥類は指定希少野生動植物に指定されていない。

- ①文化財保護法(昭和25年法律第214号)により地域を定めずに天然記念物に選定されている種
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成5年4月施行)において希少野生動植物種に選定されている種
国内:国内希少野生動植物種
- ③「環境省第5次レッドリスト、環境省報道発表資料(令和8年3月17日)」に記載されている種及び亜種
EN:絶滅危惧ⅠB類、VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧
- ④「～高知県の絶滅のおそれのある野生動物～高知県レッドリスト(動物編)2017改訂版」に記載されている種
CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類、VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧

⑤希少猛禽類－ミサゴの確認状況－

- ・昨期以前にも営巣活動を行っている3箇所の営巣地で繁殖した。営巣場所の確認状況調査においては、巣1及び巣2では2羽、巣3では1羽の巣立ち後の幼鳥を確認し、いずれの巣でも令和7-8年繁殖シーズンの繁殖成功を確認。
- ・各巣における営巣活動、貯水池やダム下流河川での狩り行動のいずれについても、工事による忌避行動は確認されず。
- ・工事による影響はなかったと考えられる。

写真非公表

図面非公表

図面非公表

写真非公表

写真非公表



ミサゴの確認位置(2025.11～2026.8)

繁殖行動の確認位置

⑤希少猛禽類—オオタカの確認状況—

- ・2026.1・2026.3にのみ確認。2026.3以降(オオタカの求愛・造巢期以降)は確認されず、また、繁殖行動は確認されず、今期は繁殖しなかったと考えられる。
- ・工事による忌避行動は確認されず。・営巣地の工事箇所付近への移動は確認されず。
- ・工事による影響はなかったと考えられる。

写真非公表

オオタカ成鳥雄
2024.11

写真非公表

オオタカ成鳥雌
2024.11

図面非公表

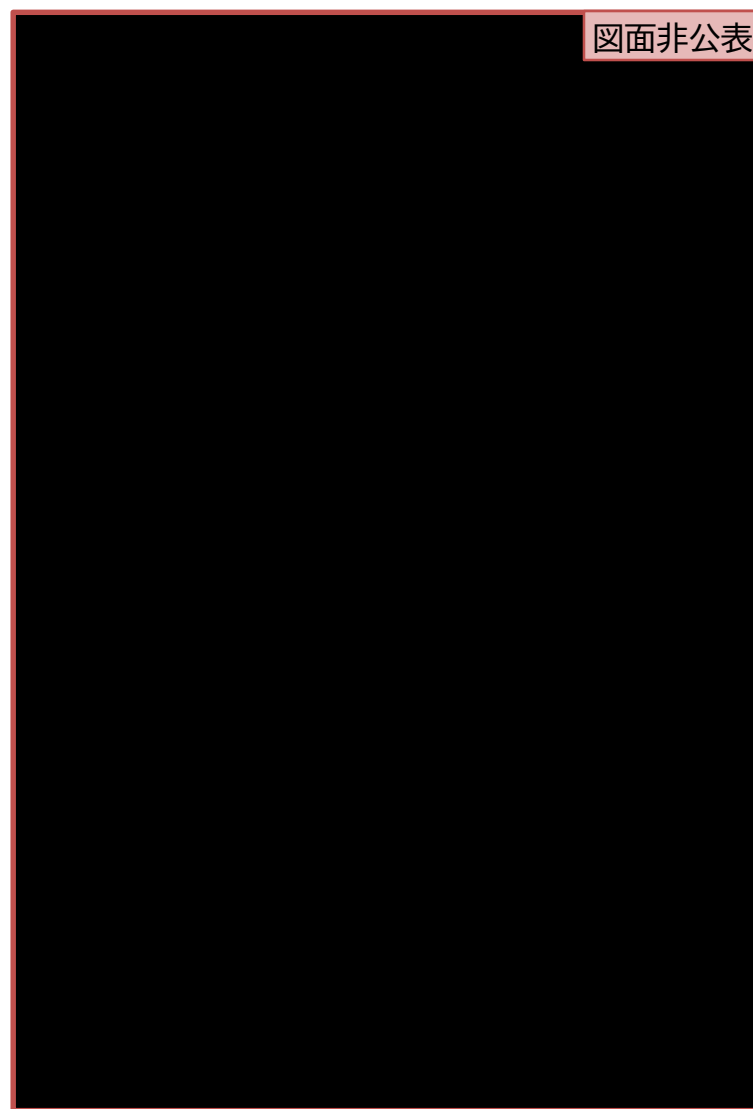
図面非公表

オオタカの確認位置(2025.11～2026.8)

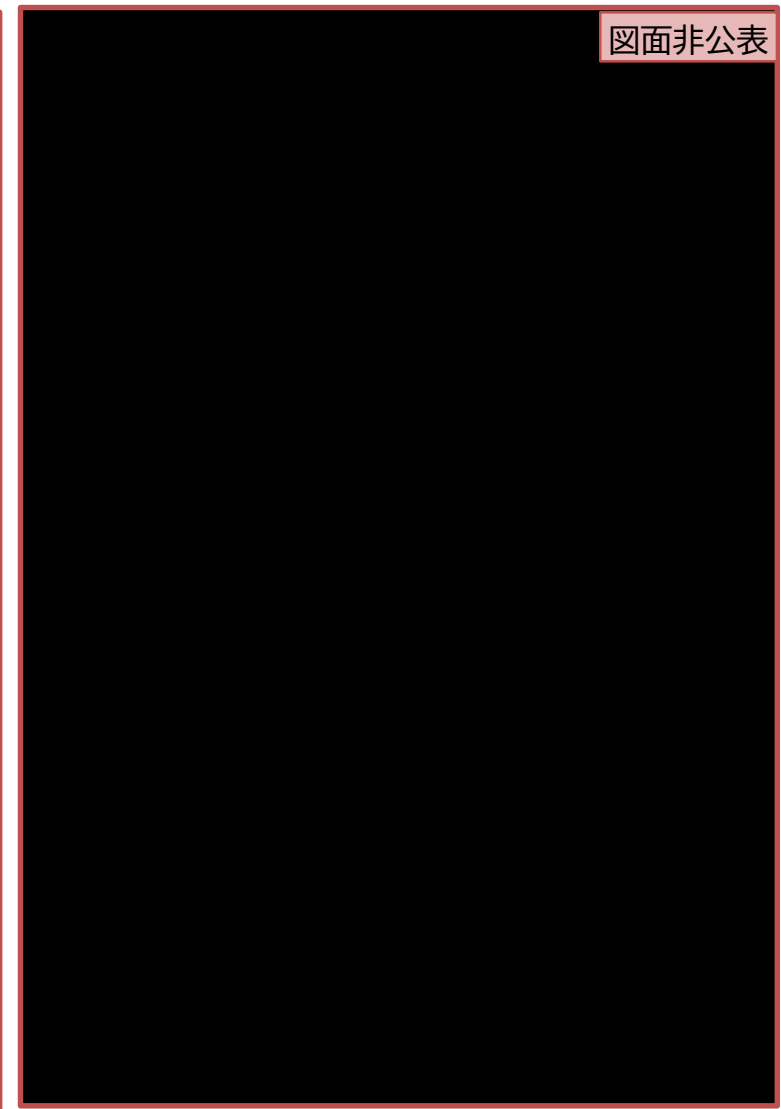
年齢性別別の確認位置

⑤希少猛禽類—クマタカの確認状況—

- ・令和5-6年繁殖シーズンは繁殖成功、令和6-7年繁殖シーズンは繁殖成功せず。
- ・令和7-8年繁殖シーズンは、既知の営巣場所の対岸で、新巣2(アカマツ)及び巣立ち後の幼鳥(繁殖成功)を確認。
- ・工事による忌避行動は確認されず。 ・営巣地の工事箇所付近への移動は確認されず。 ・工事による影響はなかったと考えられる。



クマタカの確認位置(2025.11～2026.8)



繁殖行動の確認位置

⑤希少猛禽類－対象つがいの繁殖状況のまとめ－

- ・工事中1年目(一昨期:令和5-6年繁殖シーズン)は、ミサゴ1つがい及びクマタカ1つがいの繁殖成功を確認した。
- ・工事中2年目(昨期:令和6-7年繁殖シーズン)は、ミサゴ3つがいの繁殖成功を確認した。
- ・工事中3年目(今季:令和7-8年繁殖シーズン)は、ミサゴ3つがい及びクマタカ1つがいの繁殖成功を確認した。
- ・オオタカ1つがいは、繁殖しなかったと考えられる。

つがいの繁殖状況

繁殖シーズン		繁殖状況※1 (工事による影響の有無)				
		ミサゴ			オオタカ	クマタカ
		Aつがい (巣2)	Bつがい (巣3)	Cつがい (巣1)	Aつがい	Aつがい
工事前	H30～R1 (2018～2019)	◎	－		×	×
工事中	R5～R6 (2023～2024)	◎ (工事影響はなかったと考えられる)	×		－	◎ (工事影響はなかったと考えられる)
	R6～R7 (2024～2025)	◎ (工事影響はなかったと考えられる)	◎ (工事影響はなかったと考えられる)	◎ (工事影響はなかったと考えられる)	×	×
	R7～R8 (2025～2026)	◎ (工事影響はなかったと考えられる)	◎ (工事影響はなかったと考えられる)	◎ (工事影響はなかったと考えられる)	×	◎ (工事影響はなかったと考えられる)

注)
※1.繁殖状況の凡例は以下のとおり。
◎:繁殖成功(巣立ち又は巣内育雛期後期までの営巣継続)、×:繁殖成功せず、－:つがいを確認していない
斜線:調査対象外

⑤希少猛禽類ーノスリの確認状況ー

- ・越冬期～繁殖期初期(2025.11～2026.3)に確認。繁殖期後期(2026.4～8)には確認されず。
- ・工事箇所付近における営巣可能性を示唆する繁殖行動は確認されず。事業実施区域周辺では繁殖していない。
- ・工事による忌避行動は確認されず。
- ・工事による影響はなかったと考えられる。

写真非公表

図面非公表

図面非公表



ノスリ
2026.1

ノスリの確認位置(2025.11～2026.8)

繁殖行動の確認位置

⑤希少猛禽類—その他猛禽類の確認状況—

- ・ハチクマ、ツミ、ハイタカ、サシバ及びハヤブサの5種を確認。
- ・繁殖行動を確認した種もあるが、工事箇所付近における営巣可能性が考えられる種はいない。
- ・工事による忌避行動は確認されず、工事による影響はなかったと考えられる。

図面非公表

図面非公表

図面非公表

図面非公表

図面非公表

ハチクマの確認位置
(2025.11～2026.8)



ハイタカの確認位置



サシバの確認位置

写真非公表



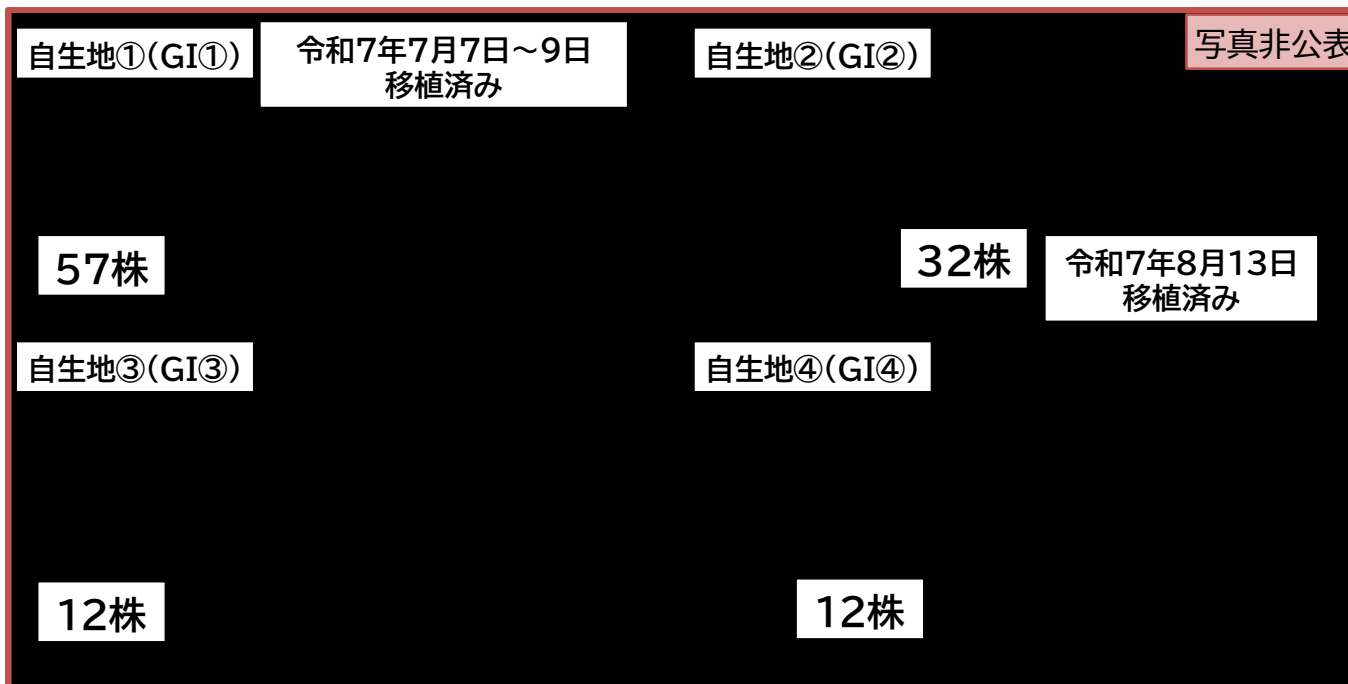
[資料-2 別紙-1]ゴシヨイチゴの移植

■新規個体の確認(対象事業実施区域内)

- ・ゴシヨイチゴの確認範囲の一部(GI①の一部)では、令和7年7月より盛土を行う計画となっていることから、盛土で消失する範囲の移植を検討し、令和7年7月7日～9日に移植を行った。(第4回委員会で報告済み)
- ・ゴシヨイチゴの確認範囲の一部(GI②の一部)では、令和7年8月～9月より盛土を行う計画となっていることから、盛土で消失する範囲の移植を検討し、令和7年8月13日に移植を行った。(第4回委員会後、報告済)20株をプランターに移植した。
- ・GI③及びGI④については、令和8年度以降(発芽後2年目以降)の移植を予定し、可能な限り成長した株を移植するため、工事の進捗を踏まえて移植時期を検討する。
- ・移植時には根の状態を観察・記録する。



令和7年8月13日移植
(GI②から20株移植)



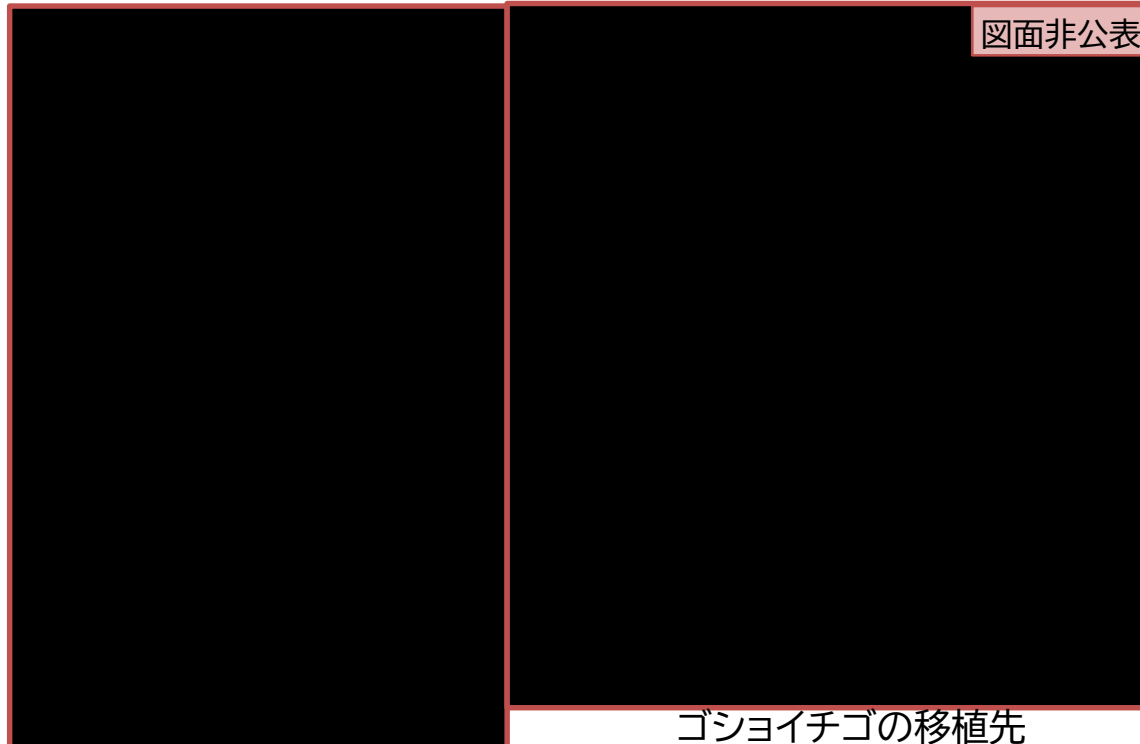
自生地(対象事業実施区域内)の状況(令和7年6月11日時点)

[資料-2 別紙-1]ゴショイチゴの移植

■移植個体の状況

- 令和8年8月時点で、移植した77株中28株で良好な生育を確認している。開花株も1株確認した。
- プランターに移植した個体は、生長に伴い根詰まりを起こすことが想定されるため、専門委員の指導の下、再移植（初冬：令和8年11月～12月頃、あるいは早春：令和9年3月頃）を行う予定である。

移植株	移植実施日	移植株数	生存株数 (令和8年6月時点)
GI①移植地	令和7年7月7日～9日	25株	6株
GI①プランター	令和7年7月7日～9日	32株	8株
GI②プランター	令和7年8月13日	20株	14株



図面非公表

ゴショイチゴの移植先

移植株の状況(移植地)
(令和8年6月時点:25株中6株生存)



開花株の状況



移植株の状況(プランター)
(令和8年6月時点:GI①より移植 32株中8株生存
GI②より移植 20株中14株生存)

[資料-2 参考]ゴショイチゴの現況

■対象事業実施区域内で確認されたゴショイチゴの現況(令和8年6月時点)

- ・ GI③で10株を新たに確認した。計22株を確認している。GI④は傾斜が急であるため、詳細な分布調査は移植時に併せて実施予定である。
- ・ GI③及びGI④でゴショイチゴの果実を2個確認した。果実は保護ネットにより食害を受けないように配慮した。後日、完熟した果実を採取した。
- ・ 採取した果実から種子を取り出し、冷蔵庫下で保管している。

■残存個体の確認

- ・ 前回委員会までの調査で把握している、対象事業実施区域内におけるゴショイチゴの残存個体は、いずれも確認できなかった。
(令和7年4月時点では、残存個体②のみ確認)

地理院タイル

自生地③(GI③)	図面非公表	自生地④(GI④)	図面非公表
22株 (10株新規確認)		12株	

自生地(GI③、④)の状況(令和8年6月29日時点)



確認したゴショイチゴ及び果実の保護の状況



ゴショイチゴの果実の採取箇所



採取したゴショイチゴの果実

図面非公表

ゴショイチゴ(残置個体①)周辺の状況(個体ナシ)
(令和8年5月21日撮影)

図面非公表

ゴショイチゴ(残置個体②)周辺の状況(個体ナシ)
(令和8年5月21日撮影)

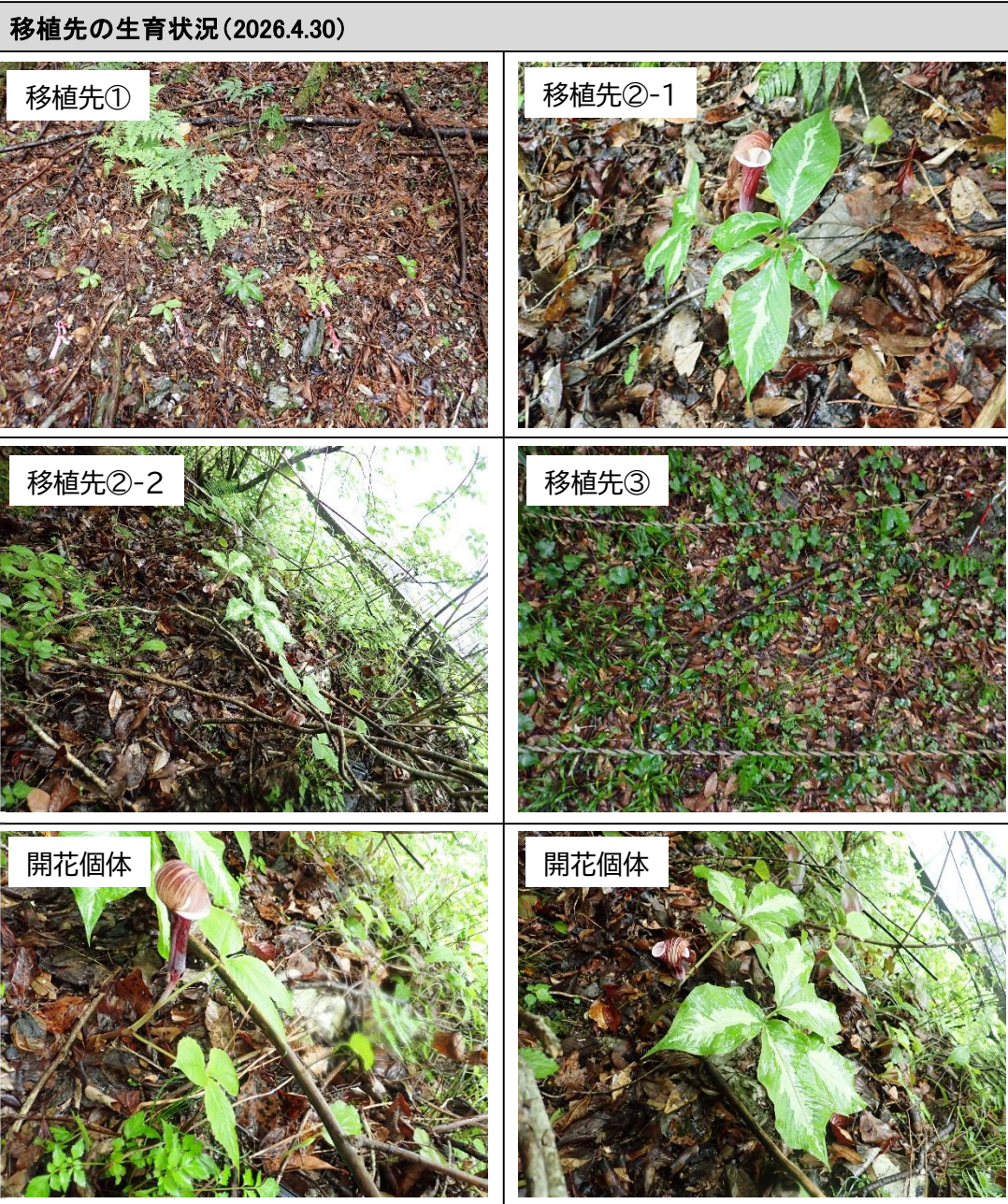
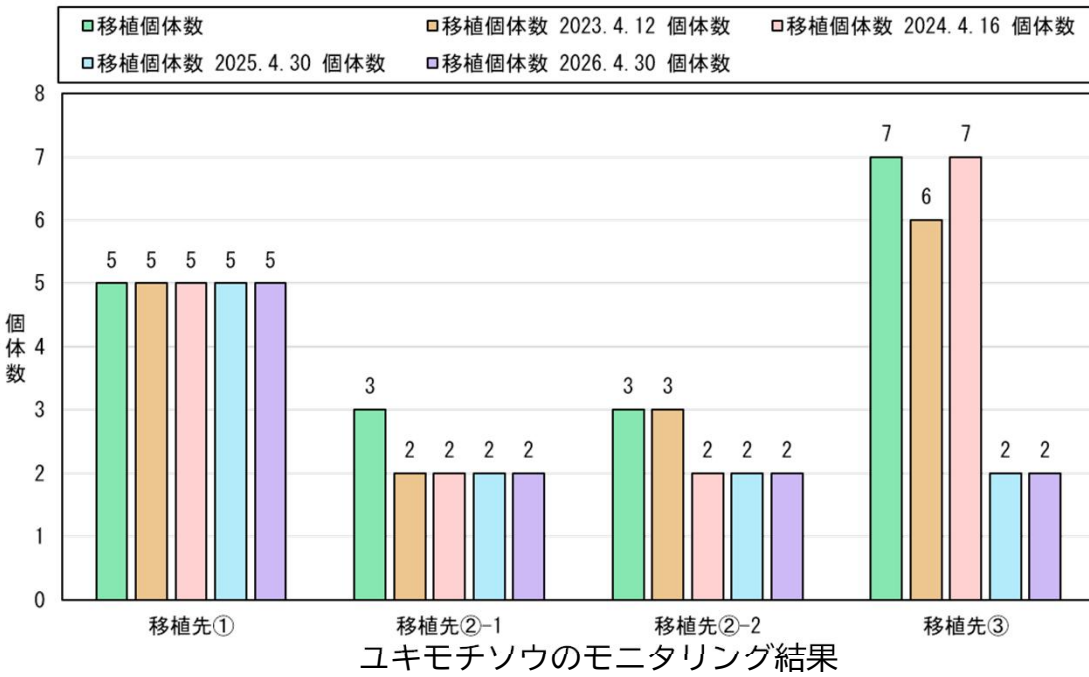
⑥植物ーユキモチソウの生育状況調査ー

■ユキモチソウ(移植株)のモニタリング調査

- ・ 2021年12月10日に移植したユキモチソウについて、開花期（4～5月）にモニタリングを実施した。
- ・ 2026年は移植した18個体のうち11個体の生育を確認した。2025年から生残率（61.1%）に変化はない。

ユキモチソウ（移植株）のモニタリング結果

種名	移植先	移植時	モニタリング時														
		2021. 12. 10	2023. 4. 12					2024. 4. 16					2025. 4. 30				
		計	♀	♂	無性	計	生残率 (%)	♀	♂	無性	計	生残率 (%)	♀	♂	無性	計	生残率 (%)
ユキモチソウ	移植先①	5	0	4	1	5	100	0	3	2	5	100	0	1	4	5	100
	移植先②-1	3	0	2	0	2	66.7	1	1	0	2	66.7	0	2	0	2	66.7
	移植先②-2	3	0	3	0	3	100	1	1	0	2	66.7	0	1	1	2	66.7
	移植先③	7	0	2	4	6	85.7	1	3	3	7	100	0	0	2	2	28.6
合計		18	0	11	5	16	88.9	3	8	5	16	88.9	0	4	7	11	61.1



⑥植物ーユキモチソウの生育状況調査ー

■ユキモチソウ（増殖個体）のモニタリング結果

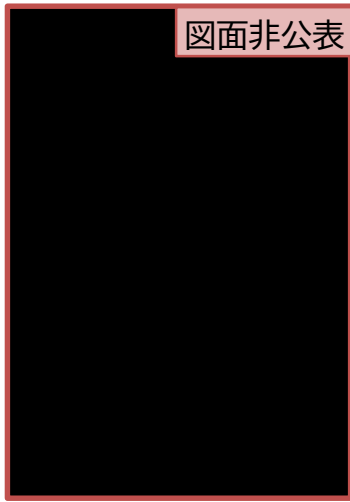
- 2026年調査において、移植先①の周辺では、ユキモチソウの増殖株を合計35個体確認した。このうち8個体が雄花であった。
- 移植先②の周辺では、増殖株を4個体確認した。このうち1個体が雄花であった。
- 移植先③の周辺では、増殖株を13個体確認した。このうち4個体が雄花で、1個体が雌花であった。
- 2025年と比較して、いずれの地点においても個体数の増加がみられた。 ユキモチソウ(増殖個体)のモニタリング結果

種名	地点	2025. 4. 30-5. 1				2026. 4. 30			
		♀	♂	無性	計	♀	♂	無性	計
ユキモチソウ	移植先①周辺	1	6	5	12	0	8	27	35
	移植先②周辺	0	1	0	1	0	1	3	4
	移植先③周辺	0	2	4	6	1	4	8	13
合計		1	9	9	19	1	13	38	52

注)移植株を除いた、ユキモチソウ(増殖個体)のみの株数を示す。



図面非公表



図面非公表

増殖個体の調査範囲

移植先の生育状況(2026.4.30)



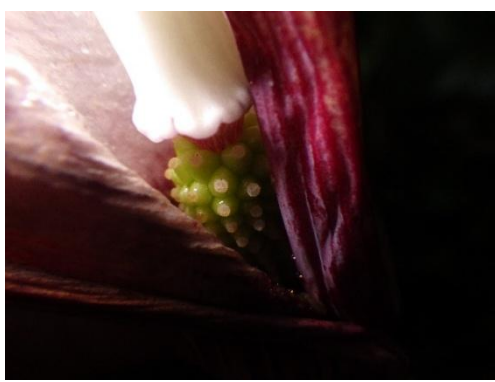
移植先①周辺(無性株)



移植先②周辺(雄株)



移植先③周辺(雌株)



増殖個体の生育状況

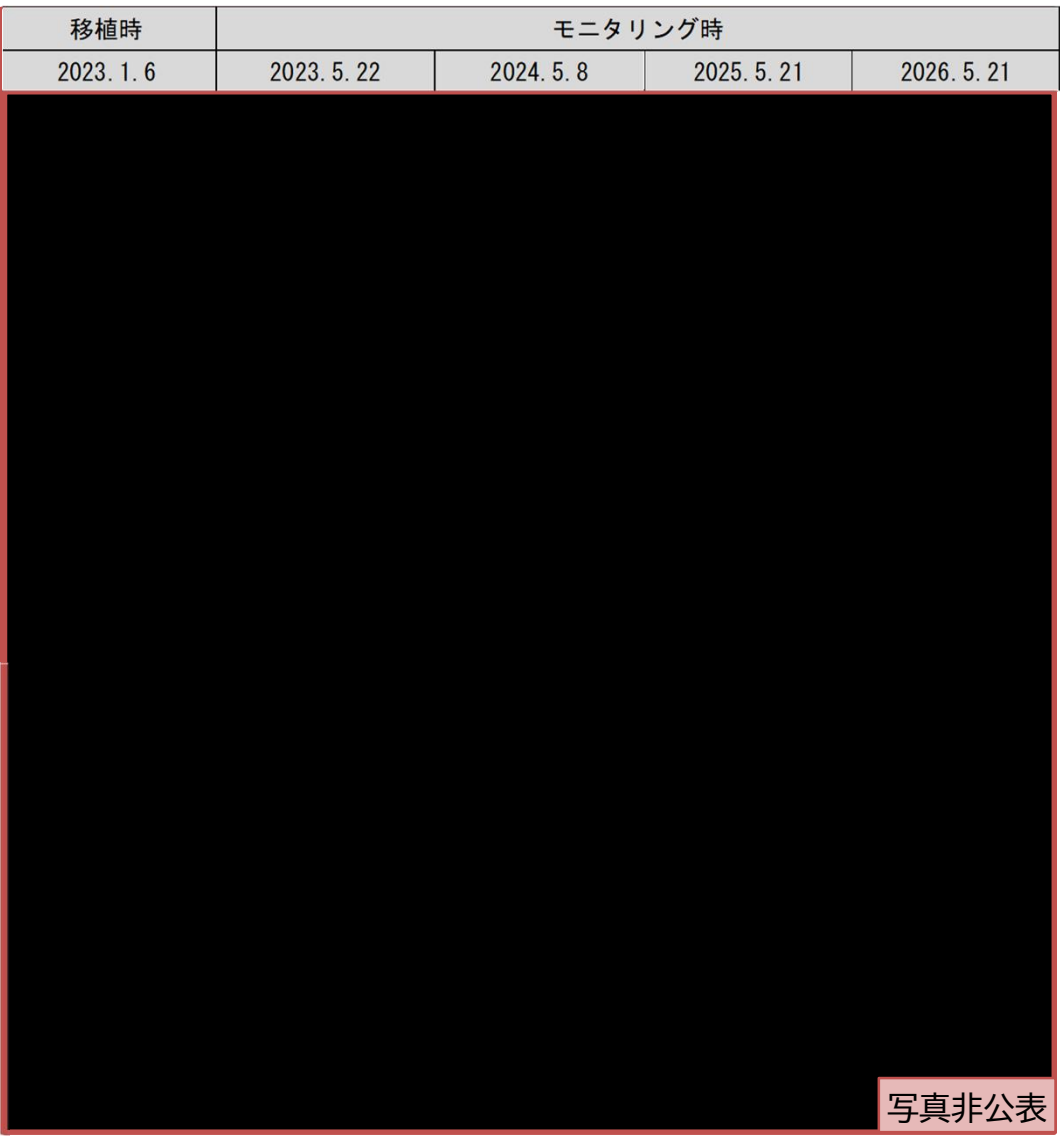
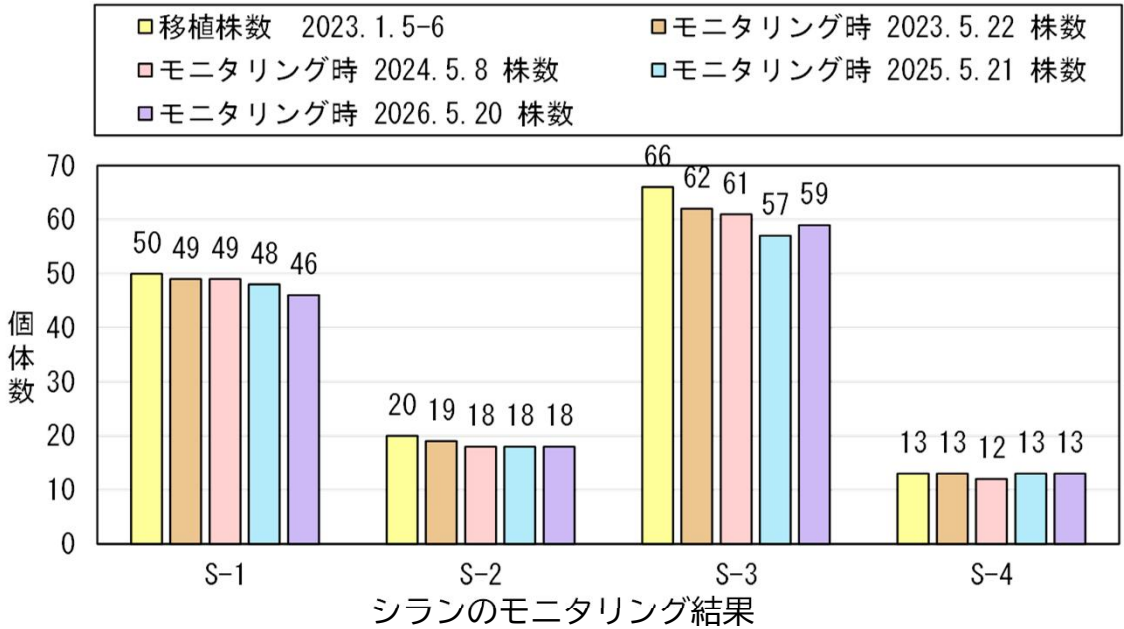
⑥植物—シランの生育状況調査—

■シランのモニタリング調査

- ・2023年1月5日～6日に移植したシランについて、開花期（5～6月）にモニタリングを実施した。2026年は5月20日に実施した。
- ・全体で91.3%が出芽しており、またすべての移植先で開花個体がみられた。2025年と比較して、大きな変化はみられていない。

シランのモニタリング結果

移植先	移植株数 2023. 1. 5-6	モニタリング時							
		2023. 5. 22	生残率	2024. 5. 8	生残率	2025. 5. 21	生残率	2026. 5. 20	生残率
		株数	(%)	株数	(%)	株数	(%)	株数	(%)
S-1	50	49	98.0	49	98.0	48	96.0	46	92.0
S-2	20	19	95.0	18	90.0	18	90.0	18	90.0
S-3	66	62	93.9	61	92.4	57	86.4	59	89.4
S-4	13	13	100	12	92.3	13	100	13	100
合計	149	143	96.0	140	94.0	136	91.3	136	91.3



写真非公表

⑥植物—移植個体以外の重要な植物 (ヒナラン・カンアオイ属)の生育状況調査—

■ヒナランのモニタリング調査

- 2026年調査では、ヒナランを111株確認した（2025年調査時：101株）。
- 多くの花茎が立ち上がり、蕾も付いていたため、良好な生育状況にあると言える。



図面非公表

ヒナラン・カンアオイ属確認位置図

■カンアオイ属のモニタリング調査

- カンアオイ属を39株確認した（2025年調査時：32株）。そのうち15株は開花しており、花の構造からサカワサイシンと同定した。
- 2025年時より株数が多く、開花している株も確認でき、良好な生育状況にあると言える。

写真非公表



ヒナランの遠景(2026年4月30日撮影)

ヒナランの生育状況(2026年4月30日撮影)



ヒナランの生育状況(2026年5月21日撮影)



ヒナランの生育状況(2026年6月29日撮影)

写真非公表



カンアオイ属の遠景(2026年5月1日撮影)

カンアオイ属の生育状況(2026年5月1日撮影)

写真非公表



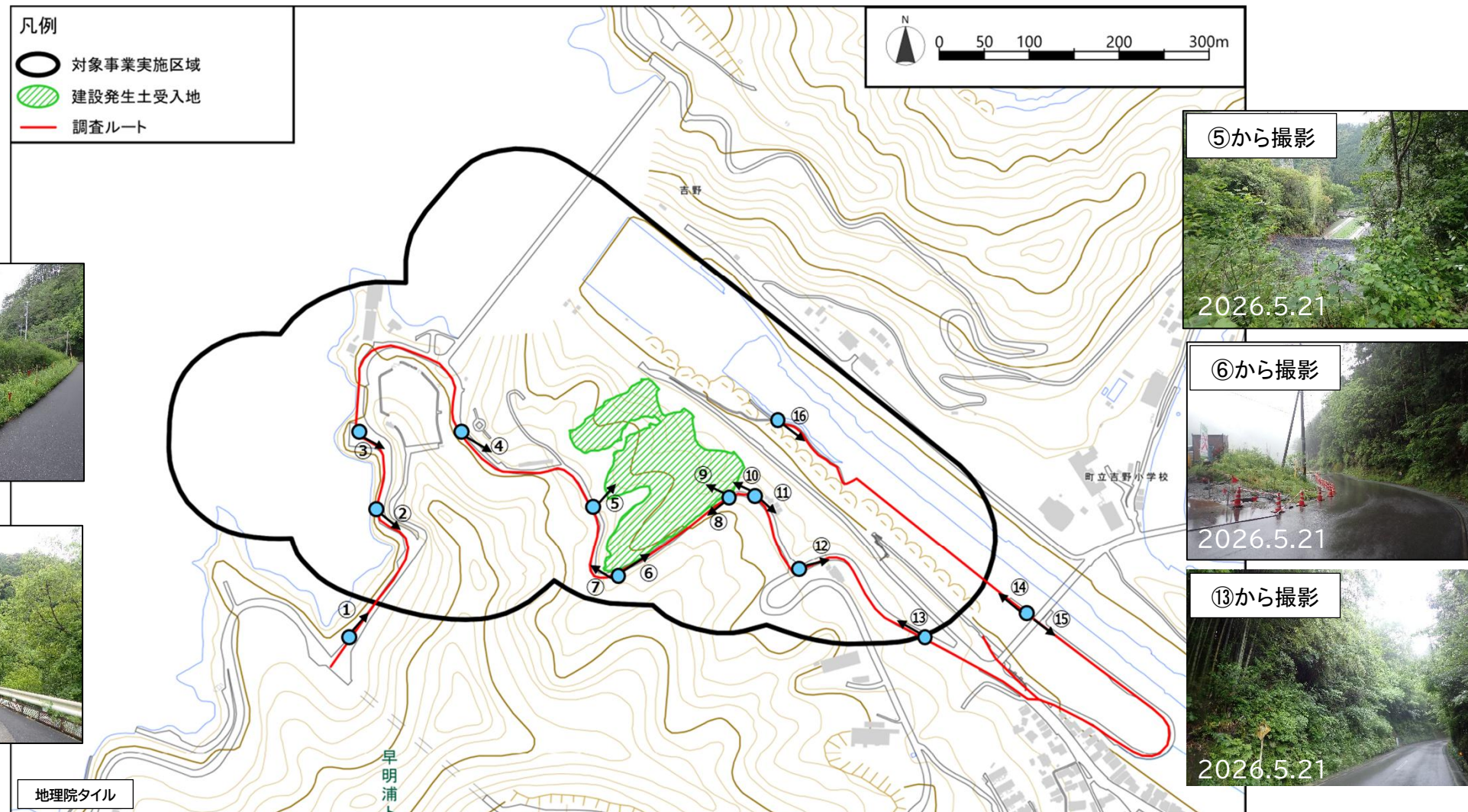
カンアオイ属の遠景(2026年5月21日撮影)

カンアオイ属の生育状況(2026年5月21日撮影)

⑥植物—特定外来生物（植物）—

■特定外来生物（植物）の把握

- ・ 2025年9月3日、2026年5月21日に工事箇所周辺を踏査した結果、工事箇所周辺に特定外来生物（植物）の侵入・繁茂は確認されなかった。
- ・ 同様の調査を2026年9月（ナルトサワギク、アレチウリ等の確認適期）にも実施する予定である。



特定外来生物（植物）調査の踏査ルート図

非公開資料終了

※一般傍聴者の方再入室

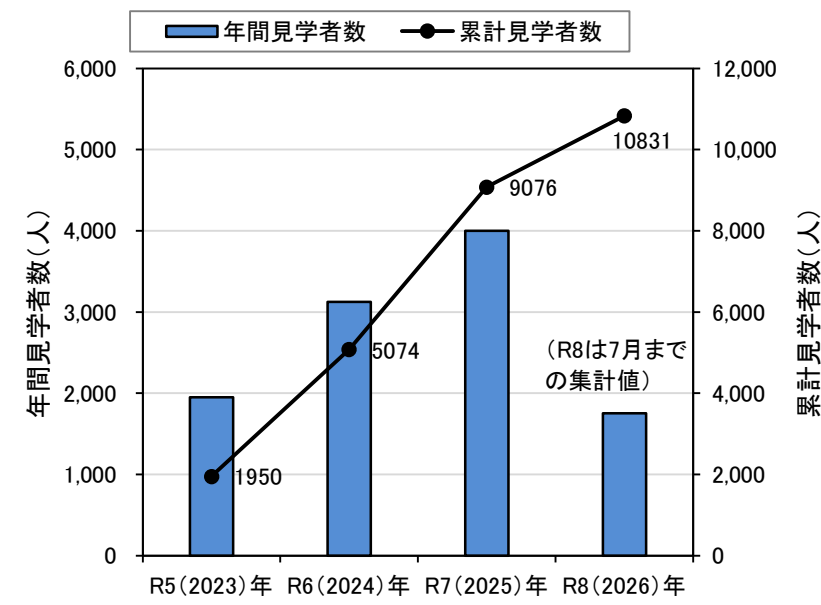
⑦人と自然との触れ合いの活動の場

関係者と連携したインフラツーリズムの推進

- 香川県や観光協議会等と連携したダム見学会や、インフラツーリズムを継続的に実施している。

早明浦ダム見学者数(2023年～2026年)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	見学者数(人)
R5(2023)年	0	15	0	406	321	164	122	65	169	79	534	75	1950
R6(2024)年	8	63	167	427	231	462	319	240	297	272	401	237	3124
R7(2025)年	52	157	112	483	646	332	288	251	356	583	500	242	4002
R8(2026)年	82	34	158	423	403	305	350						1755
計	142	269	437	1739	1601	1263	1079	556	822	934	1435	554	10831



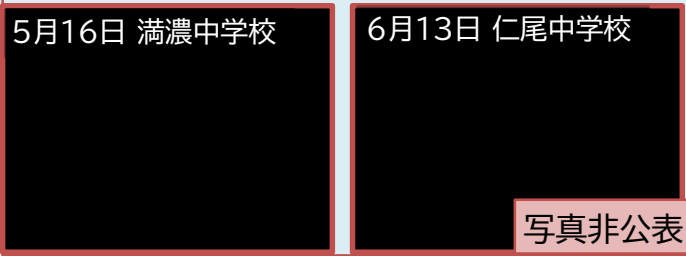
早明浦ダム見学者数
(徳島県からの利用者)

年	見学者数(人)
R5(2023)年	4
R6(2024)年	114
R7(2025)年	118
R8(2026)年 (7月までの集計)	114
計	350

【水源地学習会(香川県と連携)】

目的:水の大切さやそれを守ってきた先人の苦勞の足跡を学ぶ機会の提供・水源地の人々との交流
対象:香川県内の小学4年生と中学1年生

年度	見学者	実施日	見学人数
2025 (R7)	三豊中学校	4月23日	122人
	綾川中学校	4月24日	211人
	満濃中学校	5月16日	158人
	高瀬中学校	5月21日	18人
	詫間小学校	5月23日	64人
	琴平中学校	6月4日	52人
	本山小学校	6月6日	25人
	南部小学校	6月10日	28人
	比地大小学校	6月12日	17人
	仁尾中学校	6月13日	40人
	大野原小学校	10月1日	92人
	高室小学校	10月21日	46人
2025(R7)年計			753人
2026 (R8)	綾川中学校	4月15日	169人
	仁尾中学校	4月17日	47人
	三豊中学校	4月21日	129人
	高瀬中学校	5月13日	26人
	満濃中学校	5月14日	175人
	豊中小学校	6月12日	97人
	南部小学校	6月23日	28人
	2026(R8)年計		671人



早明浦ダム見学者数(2023年～2026年)

⑦人と自然との触れ合いの活動の場

【香川県の施設見学ツアー】

緑と水の森林ファンド助成事業

2026 早明浦交流プロジェクト 交流の森づくりツアー



7/18(土)～19(日)
◎高知県土佐郡大川村
申込締切**6/19(金)**
先着**30名**

募集人数

30名 (先着順)

※対象は小学生以上
小・中学生は保護者同伴

申込方法

電子申請・届出システムでお申し込みください。
システムをご利用いただけない方は参加者全員について下記事項を
明記のうえ、FAXもしくは郵送でお申し込みください。
①郵便番号・②住所・③氏名(フリガナ)・④年齢・⑤性別
⑥緊急連絡先(ツアー当日に連絡が取れる携帯電話番号等)
⑦希望する体験行事(1.水辺の観察会、2.大川村名所巡り)



←電子申請・届出システム
はこちらから

主な日程

7/18(土)	7/19(日)
8:15 高松市中央公園集合	7:00~朝食
10:45~早明浦ダム見学	8:30~森林整備開始
12:00~昼食(お弁当)	11:00 森林整備終了
14:00~白滝の里到着 (オリエンテーション等)	12:00~昼食(白滝の里)
14:30~体験行事 (①水辺の観察会 ②大川村名所巡り)	13:00~白滝の里出発 村のえき「船の里」 道の駅土佐さめうらを経由
17:30~夕食(バーベキュー)	17:00 高松市中央公園到着解散

森林整備

大川村名所巡り



水辺の観察会
※専門家の同行はありません。

★主催 香川県・(公財)かがわ水と緑の財団・NPO法人どんぐりネットワーク

出典)「香川県庁ホームページ」

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/rinsei/moridukuri/donguri/sameuratua-.html>

【大川村の観光ツアー】



どっぶり高知旅
SUPER LOCAL KOCHI
10名限定

限定特典

ダムカード
遊覧船Ver

大川村を巡る

さめうらダム旅

早明浦ダムの再生工事と吉野川上流域の大川村を巡るツアー。

2025年は早明浦ダム管理50周年の年。村の中心地がダムに沈んだ歴史を持つ「大川村」。ダムの放水時には話題になるけど、これを機に、もっと多くの方に大川村を知ってもらいたい。来てもらいたい。と想いを込めて企画したモニターツアーです。



(特別料金) **11,250**
1泊2日 ¥ **22,500**/名
食事・体験・宿泊費込み

開催日

3/15(土) - 16(日)



出典)「一般社団法人 大川村ふるさとむら公社」

<https://okawafk.or.jp/event/4439/>

環境巡視結果

環境巡視

・環境保全への取り組みについて、実施状況を確認するため、環境巡視を実施した。

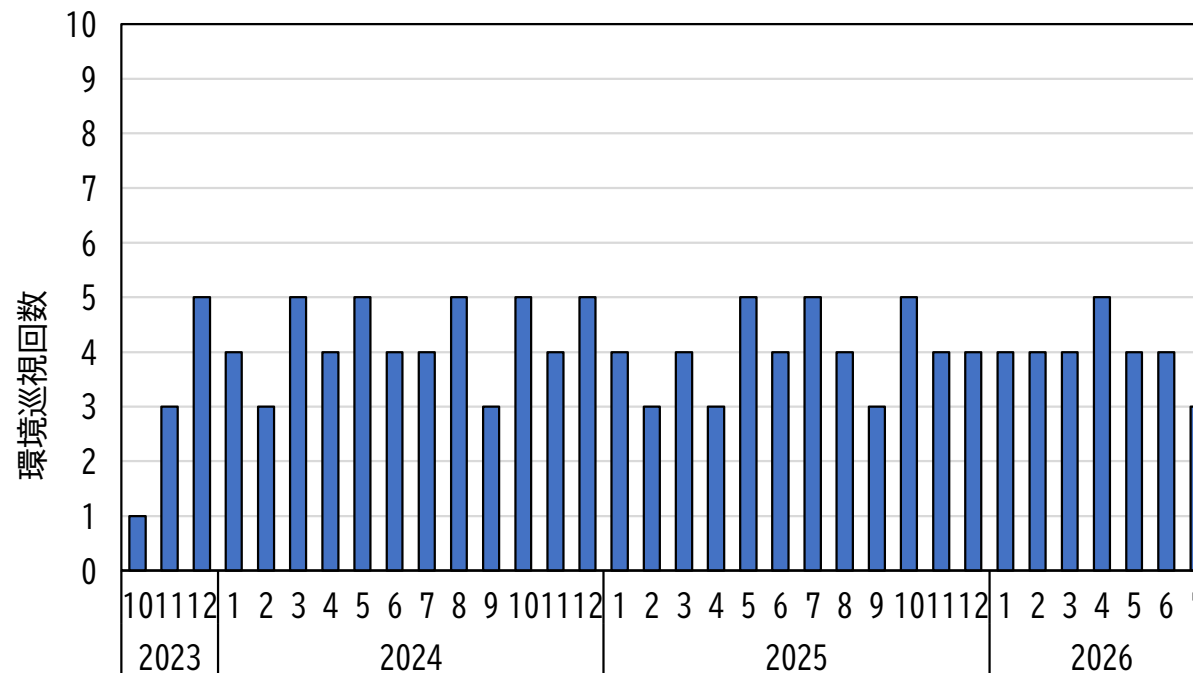
■環境巡視のチェック項目の例

環境保全措置			確認事項	
建設機械の稼働・工事用車両の通行	大気質	散水	①粉じんの発生源(堤体削孔箇所等)への散水は行っていますか？	
			②工事用道路1号線(骨材搬入路入口やや上流～2号ゲート)での散水活動は実施していますか？	
			③県道17号線(2号ゲート～濁水処理装置、吉田橋手前3号ゲート出入口)での散水活動は実施していますか？	
			④工事用道路3号～バッチャープラントまでの散水は行っていますか？	
			⑤バッチャープラント周囲の散水は行っていますか？	
			⑥工事用道路4号の散水は行っていますか？	
		タイヤ洗浄	⑦タイヤ洗浄装置は、設置されていますか？	
			⑧工事用車両・建設機械の洗浄は、実施していますか？	
	騒音・振動	低騒音・低振動型建設機械の採用	使用している建設機械は、超低騒音・低騒音型建設機械ですか？ ※確認方法:ラベル(低騒音) ラベル(超低騒音)	
		騒音抑制工法等の採用	①バッチャープラント、濁水処理装置の周囲に吸音パネルを設置していますか？	
			②岩掘削作業には超低騒音ブラケットアングリを用いた油圧ブレーカ、バブルブレイカーを併用していますか？	
			③コンクリートミキサー車等の周囲には防音 TENT を設置していますか？	
		水質	濁水処理の状況	濁水処理装置・処理水に異常はありませんか？
	共通	効率的な稼働	運搬車両が一箇所に集中しないように使用していますか？	
		自動計測・電子掲示板	電子掲示板の計測値が基準値内ですか？(騒音85dB,振動75dB,SS25mg/L,pH6.5-8.5)	
	動物・植物・生態系	生物に配慮した夜間照明	夜間照明器具はルーバー付き照明器具やLED照明を使用されていますか？	
			照明角度は30°に制限されていますか？	
		残存する生息・生育環境の攪乱に対する配慮	工事現場周辺の環境の攪乱に対する配慮が実施されていますか？	
			ヒナランの生育地が保護されていますか？	
			残置したカンアオイ属の生育が維持されていますか？	

33

■調査期間・時期

- ・調査期間は工事期間中とする。
 - ・原則として環境巡視は1ヵ月に1回実施。
- ※工事内容に応じて設定



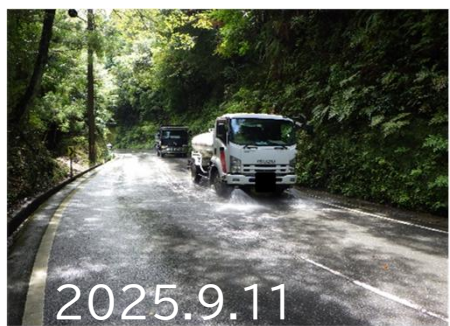
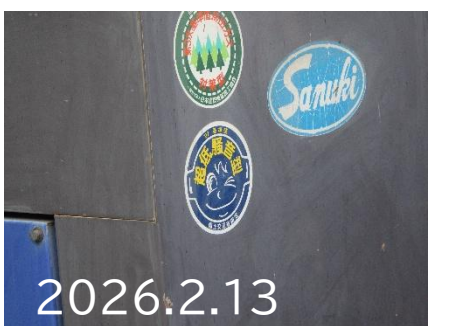
早明浦ダム再生事業の環境巡視実施回数

■巡視結果

- ・環境巡視は、2023年10月から開始し、水資源機構の職員等により毎月実施している。
- ・チェック項目数は、工事の種類によって設定している。
- ・これまでの環境巡視において、工事の中断が必要となるような状況は確認されはなかった。

環境巡視

■環境巡視結果(環境保全への取り組み状況)

大気質			水質	
県道17号散水・清掃	タイヤ洗浄	工事用道路の散水	濁水処理状況の確認(pH・濁度計測)	濁水処理装置
 2025.9.11	 2025.11.27	 2026.5.8	 2025.10.8	 2025.8.8
騒音・振動			動物・植物・生態系	
低騒音型建設機械の採用	騒音・振動の計測	防じん・吸音パネルの設置	生物に配慮した夜間照明	残存する生息・生育環境の攪乱に対する配慮
 2026.2.13	 2026.3.6	 2026.3.9 2025.12.12	 2026.1.23	 2026.4.30

■環境巡視における主な指摘と対応

指摘	対応
・タイヤ洗浄において、洗浄水を通すホースが外れ工事用道路1号線へ流出。  2026.7.10	・補修されていることを確認した。  2026.7.17

■環境学習会の開催

- ・ 職員及び工事業者を対象とした環境学習会を開催し、環境保全対策の位置付けやフォローアップ調査への展開等の認識を共有した。



環境学習会の開催概要

開催日時	2025年12月4日(木) 13:30～15:00
場所	早明浦ダム管理所 ふれあいホール
参加者	水資源機構及び施工業者 (他事務所の職員はWEBで参加)
内容	13:30～ 「水資源機構における植物保全の取り組み～希少植物ゴシヨイチゴの移植とモニタリングの事例～」 14:00～ 「水資源機構における植物保全の取り組み～特定外来生物とモニタリングについて～」 14:30～ 質疑応答